

2024（令和 6）年度 事業報告書

（2024（令和 6）年 4 月 1 日から 2025（令和 7）年 3 月 31 日まで）

学校法人 松蔭女子学院

目 次

理事長、学長、校長メッセージ	1
----------------	---

I 法人の概要

1. 法人の名称、主たる事務所の所在地	4
2. 法人設置の目的、建学の精神	4
3. 学校法人の沿革	4
4. 設置する学校、学部学科、入学定員等	6
5. 学生・生徒数の状況	7
6. 収容定員充足率	8
7. 役員（理事・監事）に関する事項	8
8. 評議員に関する事項	9
9. 教職員に関する事項	10
10. 校地・校舎等面積	10

II 事業の概要

1. 法人	12
2. 中学校・高等学校	15
(1) 執行部関係	15
(2) 職員会議、その他委員会等の開催状況	15
(3) 教学関係	15
(ア) 「学校運営方針」および「生徒指導の重点」	
(イ) 中学ストリーム制・高校3コース制（高1、高2）と高校3年生（新課程導入初年度）	
(ウ) 式典・学校行事・校外研修	
(エ) 英語・グローバル教育	
(オ) 各大学、学外団体との連携プログラム	
(カ) 進学対策と受験指導	
(キ) いじめへの対応、ニーズがある生徒への「特別支援」	
(ク) 人権教育、性教育	
(ケ) キリスト教主義教育	
(コ) 生徒会活動、課外活動、学外の個人活動	
(サ) 安全教育、防災教育	
(シ) 学校IT化、ICT教育推進	
(ス) 中学・高校の入学生数および全校生徒数（4/1時点）、中学・高校卒業生数	
(4) 入試・生徒募集関係	28
(ア) 入試説明会実施状況	
(イ) 2025年度 中学入試結果	
(ウ) 2025年度 高校入試結果	
(5) 高校の進路結果	30
(ア) 進路状況全般（過去3カ年推移）	
(イ) 2025年度入試での外部大学進学者数一覧	
(6) 施設・設備関係	32
(7) 事業計画の進捗・達成状況	32
3. 大学	33
(1) 執行部関係	33
(2) 教授会開催状況	33
(3) 教学マネジメント会議	33
(4) 教学関係委員会開催状況	33
(5) 教学関係	34
(ア) 教育課程（カリキュラム）	
(イ) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	
(ウ) 教育へのICTの導入	
(エ) 卒業時アンケート	
(オ) 卒業生数	
(カ) 標準修業年限で卒業した学生の割合等	
(6) 大学院教育	35
(7) 学生生活関係	36

(ア) 課外活動 (イ) 学生生活 (ウ) 大学祭(松蔭祭) (エ) ハラスメント対策 (オ) 学生支援室 (カ) 学生相談室 (キ) 保健室 (ク) 学生寮 (ケ) キャンパスにおける安心・安全対策 (コ) 教育 後援会について	
(8) 国際交流関係	42
(ア) 語学研修・海外インターンシップについて(全学科全学年対象) (イ) セメスター留学について (英語学科2年生後期実施) (ウ) 学科別海外研修について (エ) 海外日本語教育助手について (オ) 受け入れ留学生	
(9) キャリア支援課	43
(ア) 学生の就職支援 (イ) 就職状況 (ウ) 主な就職先 (エ) 課外講座等の民間企業との連携	
(10) 入試関係	44
(ア) 本学の入試制度 (イ) 広報関係 (ウ) アドミッション・ポリシー	
(11) 施設・設備関係	46
(12) 情報インフラ整備関係	46
(13) キリスト教センター関係	47
(ア) ムーンサービス (イ) 特別礼拝 (ウ) 式典 (エ) 募金活動 (オ) 結婚式 (カ) 公開行事・ イベント (キ) 会場提供	
(14) 図書館関係	48
(ア) 図書館 (イ) 学術研究委員会	
(15) 社会連携・社会貢献	49
(ア) 社会貢献 (イ) 人材育成 (ウ) 産官学連携 (エ) 高大連携、地域の教育機関等との連携	
(16) 言語科学研究所	51
(ア) 機関誌の発行 (イ) 研修員・研修生の受け入れ (ウ) 国内外の研究者による研究発表会・研究講 演会の開催 (エ) ウェブサイトによる情報の発信	
(17) 外国語教育センター	52
(18) 情報教育センター	52
(ア) 情報教育・コンピュータ教室関係 (イ) 学内ネットワーク関係	
(19) 神戸松蔭こころのケア・センター	53
(ア) 教育活動について (イ) 心理相談活動について (ウ) 研究活動について (エ) 広報活動について	
(20) 教職支援センター	53
(ア) 教職課程および保育士養成課程の認定状況 (イ) 課程履修者数 (ウ) 保育・教育実習に参加した 学生数 (エ) 保育士資格および教育職員免許数の授与件数 (オ) 就職実績 (カ) 教員採用試験対策講 座の実施 (キ) 教職教育年報	
(21) 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況	55
(ア) 教育 (イ) 学生生活 (ウ) 研究 (エ) 社会連携 (オ) 大学運営	

Ⅲ 財務の状況

1. 決算の概要	61
(1) 貸借対照表関係	61
(ア) 貸借対照表の状況と経年比較 (イ) 財務比率の経年比較	
(2) 資金収支計算書関係	62
(ア) 資金収支計算書の状況と経年比較 (イ) 活動区分資金収支計算書の経年比較 (ウ) 財務比率の経年比較	
(3) 事業活動収支計算書関係	64
(ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較 (イ) 財務比率の経年比較	

(4) その他有価証券の状況	65
(5) 借入金の状況	65
(6) 学校債の状況	65
(7) 寄附金の状況	66
(8) 補助金の状況	66
(9) 収益事業の状況	66
(10) 関連当事者との取引の状況	66
(11) 学校法人間財務取引の状況	66
2. 経営状況の分析と経営上の課題	67
3. 財産目録	68
4. 監事の監査報告書	69

IV 対処すべき課題

1. 中学校・高等学校の教育関係	70
2. 中学校、高等学校の生徒募集計画	70
3. 中学校・高等学校の施設・設備関係	70
4. 大学の新学部・新学科等の増設等	71
5. 大学の教育・研究関係	71
6. 大学の学生募集計画	71

2024（令和 6）年度 事業報告書

（2024（令和 6）年 4 月 1 日から 2025（令和 7）年 3 月 31 日まで）

レムナント・残りの者

理事長 中村 豊

本学院の大学にとっての 2024 年は、入学者数が 300 名を下回るという前例のない学生数の減少に加え、収容定員が 50%以下となった二学部に対して経常費補助金が不交付となるなど、非常事態の中で幕を開けた一年だった。

この年は学長をはじめとする執行部の改選期に当たり、大学再生の使命を担って就任された徳山学長以下、新執行部の方々には並々ならぬご尽力をいただいた。特に 2024 年度からの共学化実施に向けた環境整備として、学内トイレの改善、更衣室の新設、強化クラブの設置など、キャンパス改革を推進した。

また、修学支援金の確保や新学科設置を見据え、収容定員を 1,600 名規模に再編したが、これに伴い、適正規模に見合った財政運営体制の構築と教職員配置の最適化が進められた。

こうした改革の一環として、教学機構の組織再編を実施するとともに、経常経費の 30%削減を実施。さらに二度にわたる選択定年制の導入により、多くの職員が離職することとなった。これを補うため、事務業務のシステム化・標準化を推進しており、2025 年度中盤からの本格運用開始を目指している。

中高では、入学者数の減少に歯止めがかからない状況が続いている。特に中学 GS（グローバル・ストリーム）の入学者数には改善の兆しが見られず、新入生の数も横ばい状態である。千と勢会館の売却や遺贈によって財政の急場を凌いだ一年ではあったが、慢性的な財政赤字の解消には程遠い状況が続いている。

紀元前 587 年、バビロニアのネブカドネザルによる遠征によって、ユダ・イスラエル王国は滅ぼされ、1 万人以上の人々が捕囚としてバビロニアに連行された。しかし、約 50 年後、ペルシャ王クロスの勅令により帰還が許され、長蛇のキャラバンが、1300 キロ離れた故国を目指して旅立った。しかし、すべての捕囚民が帰還したわけではない。豊かな地・バビロニアを離れ、荒廃した祖国への困難な旅路に踏み出すことは、大きな冒険であり、帰国を選ばなかった人々も少なくなかった。

一方、砂漠を越えてエルサレムに帰還した人々の熱狂も長くは続かなかった。生活は苛烈を極め、長らく人の住まなかった土地は荒廃し、雨露を凌げる家屋さえほとんど残されていなかった。再建の歩みは遅々として進まない中、人々は困難に耐えながら、故国の再興に全力を傾けた。この人たちは「レムナント（残りの者）」と呼ばれる。

もしこの帰還が実現しなければ、ユダヤ人は東方の諸民族と混交し、いずれ固有の民族的アイデンティティを喪失していたに違いない。キリスト教やイスラム教も誕生しなかったであろう。

聖公会キリスト教主義学校である本学院に携わる人たちもまた、この「残りの者」の系譜に連なる。神から託された「神戸松蔭」再建という聖なる使命を担う、祝福された存在なのである。

新ロゴマークと共学化スタートに向けて

神戸松蔭女子学院大学

学長 徳山孝子

社会は、かつてないスピードで進む技術革新、環境問題の深刻化など、変革期を迎えるなかで、全体的に問題と向き合い、自らの道を切りひらいていく人材を育てるため、大学教育の革新が続いている。「多様性の理解と受容を生かす教育」を柱の一つに掲げ、多様な人々と交流し、自分とは異なる考え方・価値観に触れる教育に力を入れている。性別・年齢・国籍の枠を超えて交流し、誰もが可能性を拓いていくことのできるキャンパスを実現している。

2025年4月1日からは、神戸松蔭大学名で共学化した。入学式では、女子学生と男子学生が8対2の割合から一期生がはじまった。

松蔭女子学院は、学院創立125周年を迎えた2017年に学院モットー「一粒のからし種」を制定した。学院モットーは、学生たちが絶えず自分を見つめ直して古い殻を破り、新しい自分を発見することによって個性を確立し、社会に貢献することと、大学教職員がそれを支援し学生の成長を促すことを示している。これを受けて大学モットーを”Open Yourself, Open Your Future”とした。神戸松蔭大学は、大学モットーを継承し、学生たちが自分自身の殻を破り成長し未来を切り拓く力を獲得することを支援する。

神戸松蔭大学として出発するにあたって、大学の目指すべき方向を示す新しいロゴマークが完成した。ロゴの制作にあたっては「ロゴ制作ワーキンググループ」が、約4か月間、大学のめざす姿や今後の方向性、または大切にすべき想いなどについて話し合い、検討した。新しいロゴマークは、広がる未来・多様な人々を受け入れる姿勢を表現し、より自由に開かれた印象となるよう、窓をモチーフにした。下の黄色の3つの点は、「松蔭に集うからし種（人が集う様子）」をイメージしている。一人一人の力を合わせて、新しい社会の在り方を考え、作り上げていく大学にしたいと思っている。

2025年度からは大学の共学化と名称変更に合わせて、文学部の英語学科をグローバルコミュニケーション学科に、人間科学部の都市生活学科を人間科学科に、2026年度からは文学部の日本語日本文学科を人文社会学科、教育学部教育学科を教育発達学科に名称を変更する。文学部にグローバルコミュニケーション学科、人文社会学科、人間科学部に人間科学科、心理学科、食物栄養学科、ファッション・ハウジングデザイン学科、教育学部に教育発達学科を置く、3学部7学科の構成となる。

2024年12月17日に、本学と立教大学社会学部との連携・協力に関する協定を締結した。これは、両大学が有する教育研究資源を活用し、教育研究の質の向上を図るため、相互に連携・協力することを目的とした取り組みである。具体的にはメディア・社会学分野における学術研究や教育活動及び人材育成に関する活動について連携していく。ゼミ活動を通じた学生交流や、特別講義の実施、キャリアプログラムへの参加等、様々な取り組みを予定している。

2024年4月には、地域連携研究センターを設立した。このセンターを中心に、それぞれの学科が取り組んできた地域貢献の取り組みを連携・深化させることとなった。学内の連携だけでなく、神戸市や企業、他大学と協働して、新しい共生社会の在り方を提案していくことを目指す。

共学化に伴い、男女のトイレや体育館のシャワールームなどの施設も整備した。学生の皆さんが新しい神戸松蔭大学で、充実した学生生活を送ってほしいと願っている。

“Growth Mindset”をもって

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井 宣光

高校 LS/AA コースの修学旅行は、シンガポール海外研修として実施している。淡路島ほどの面積に 600 万人が暮らすこの小国は 1965 年の独立以来、経済発展を第一として追求してきた。今や整備されたインフラによりアジアの金融・物流のハブ機能をもつ。また多文化が共存する都市国家でもある。公用語は英語、マレー語、中国語、タミル語だが、家庭では母語で会話しても街へ出ると多くの人が英語で話す人が多いという。「シンガリッシュ」と称する地元訛りの英語も、最近の若者には少ないという。この国のあり方を“Growth Mindset”を培う社会、と評した人がいた。努力を重ねて経験を積み、能力を高めて成長し続けようとする姿勢は、この国の人々にとって特別のことではない。国民も政府も、内にも外にも限界点をつくらない印象がある。

USS（ユニバーサルスタジオ・シンガポール）にナイトサファリもあるよ、と生徒の好奇心を掻き立てながら、現地プログラムに自由行動時間を増やし、現地大学生との英語による相互プレゼンテーションも企画した。生の“Growth Mindset”に触れてもらう狙いがある。VUCA の時代やら不確実の時代と言われる。先入観や固定観念にとらわれることなく一步を踏み出して新たな挑戦を続ける姿勢は、若者たちにとり必須であろう。球根に秘められた花のように、動かぬさなぎにある命のように、静かにそして着実に蓄えて羽ばたく準備をする。学校教育の様々な機会に意識したいものである。

修学旅行が終わり生徒対象のアンケート調査をした。自由記述欄にある生徒が次のコメントを残した。

「意見ではなくコメントと感謝を言います。今回の海外研修が初めての海外経験でした。英語が苦手な私は、英語でちゃんと話せるかどうか、買い物が上手くできるかなど不安でしたし、実際に現地到着の初日は英語がしどろもどろでした。でも 2 日目からは落ち着いて会話ができるようになりました。日本とは違う風景と言語、そして文化や法律など、目に見るもの、肌で感じるものすべてが初めての経験で楽しくて仕方がありませんでした。このような経験ができたのは、忙しいなかで計画を立ててくださった先生方と、行かせてくれた家族のお陰です。アンケートですがあらためてお礼が言いたいです。本当にありがとうございました。」

人として大切なことも忘れていないこの松蔭生に喝采を送る。2026 年度より中高の一部コースを共学化する。生徒に劣らぬ“Growth Mindset”をもってこの事業を成し遂げたい。

I 法人の概要

1. 法人の名称、主たる事務所の所在地

法人の名称：学校法人松蔭女子学院

主たる事務所の所在地：兵庫県神戸市灘区篠原伯母野山町 1 丁目 2 番 1 号

電話番号（代表）：078-882-6122

2. 法人設置の目的、建学の精神

学校法人松蔭女子学院は、建学の主旨たるキリスト教精神に基づき、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に則り教育事業を行うことを目的として、1951(昭和 26)年に設立された。現在は大学院、大学、高等学校、中学校を設置し、いずれにおいても聖公会キリスト教精神に基づく教育を実践することを目的に、知識習得や勉学・研究内容の向上だけではなく、人格の完成と心身ともに健康な社会人を育成することを教育目標としている。

【松蔭女子学院のモットー】

聖書にイエスの言葉として以下のように書かれている。

「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る」(マルコ 4:30－32)

イエスは、小さなからし種でも、この種に、姿かたちを変えながらの成長を期待して神の愛と恵みが注がれるならば、やがて鳥が枝に巣を作るほどの木になると約束した。

松蔭女子学院という場での学びを通して、絶えず自分を見つめ直して古い殻を破り、新しい自分を発見することによって個性を確立し、社会に貢献する女性としての成長を促すのが松蔭女子学院の教育理念である。

3. 学校法人の沿革

明治 25 年 1 月 英国聖公会 S.P.G.より派遣されたヒュー・J・フォス師らによって、神戸市山本通（現在の北野町）に松蔭女学校創立

明治 32 年 12 月 文部省より私立学校令による設立認可

明治 44 年 5 月 文部省より専門学校入学者検定第 8 条第 1 号による指定を受ける

大正 4 年 4 月 私立松蔭高等女学校に改称

大正 11 年 3 月 私立松蔭高等女学校財団法人設立

昭和 5 年 4 月 専攻科設置(修業年限 1 年)

昭和 22 年 3 月 松蔭女子専門学校設立認可

昭和 22 年 4 月 学校教育法により松蔭中学校設置

昭和 23 年 4 月 学校教育法により松蔭高等学校設置

昭和 25 年 3 月 松蔭女子専門学校廃止、松蔭短期大学(英文科、キリスト教科)設置

昭和 26 年 3 月 学校法人松蔭女子学院寄附行為認可

昭和 28 年 4 月 短期大学に服飾科増設

昭和 35 年 4 月	短期大学に家政科増設
昭和 37 年 4 月	短期大学に日本文学科増設
昭和 41 年 4 月	松蔭女子学院大学(文学部 キリスト教学科、英米文学科、国文学科)設置、これに伴い短期大学キリスト教科、日本文学科を廃科
昭和 44 年 4 月	短期大学学科呼称変更、英文学科、服飾学科、家政学科と改称
昭和 49 年 4 月	松蔭短期大学を松蔭女子学院短期大学と校名変更
昭和 55 年 4 月	六甲学舎第 1 期工事竣工に伴い、短期大学青谷より移転 大学キリスト教学科廃科
昭和 56 年 4 月	六甲学舎第 2 期工事竣工に伴い、大学垂水より移転
昭和 56 年 9 月	六甲学舎第 3 期工事竣工、大学・短期大学統合学舎完成
昭和 61 年 4 月	短期大学英文学科専攻課程設置(英文学専攻、英語学専攻)、家政学科専攻課程設置(生活科学専攻、食物栄養専攻)
昭和 61 年 4 月	短期大学家政学科食物栄養専攻が栄養士養成施設として指定される
平成 3 年 4 月	短期大学服飾学科を生活造形学科、家政学科を生活科学科に名称変更
平成 4 年 4 月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
平成 4 年 9 月	学院創立 100 周年
平成 7 年 4 月	大学・短期大学の校名をそれぞれ神戸松蔭女子学院大学、神戸松蔭女子学院短期大学に変更
平成 12 年 4 月	大学院文学研究科(修士課程 英語学専攻、国語国文学専攻)設置 大学文学部に総合文芸学科設置 短期大学英文学科の専攻毎の学生募集停止(専攻課程廃止) 短期大学英文学科を英語コミュニケーション学科に名称変更
平成 13 年 4 月	大学文学部に心理学科設置
平成 14 年 4 月	大学院文学研究科博士課程(言語科学専攻)設置
平成 16 年 4 月	大学院文学研究科修士課程に心理学専攻設置 大学に人間科学部心理学科設置 大学文学部心理学科学生募集停止
平成 17 年 4 月	大学人間科学部に生活学科(都市生活専攻、食物栄養専攻)設置 短期大学生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)の学生募集停止 神戸松蔭女子学院短期大学を神戸松蔭女子学院大学短期大学部に校名変更 大学人間科学部生活学科食物栄養専攻が管理栄養士養成施設として指定される
平成 19 年	大学 60 周年記念事業実施
平成 19 年 9 月	短期大学部生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)を廃止
平成 20 年 4 月	大学人間科学部に子ども発達学科、ファッション・ハウジングデザイン学科を設置 大学文学部英語英米文学科、国文学科収容定員を変更 短期大学部英語コミュニケーション学科、生活造形学科の募集を停止
平成 21 年 4 月	大学人間科学部子ども発達学科が指定保育士養成施設に指定される
平成 22 年 4 月	大学文学部心理学科を廃止 (財)大学基準協会 大学評価(認証評価)の結果、大学基準適合認定を

	受ける
平成 23 年 4 月	大学文学部英語英米文学科、国文学科の学生募集停止 文学部総合文芸学科、人間科学部心理学科の収容定員変更 文学部に英語学科、日本語日本文化学科を設置
5 月	神戸松蔭女子学院大学短期大学部を廃止
平成 24 年	学院創立 120 周年記念事業実施
平成 27 年 4 月	認定こども園松蔭おかもと保育園開園（系列社会福祉法人松蔭ミカエル福祉会）
平成 28 年 4 月	大学（財）大学基準協会 大学評価（認証評価）の結果、大学基準適合認定を受ける
平成 29 年 3 月	大学文学部英語英米文学科、国文学科を廃止
4 月	大学人間科学部生活学科学生募集停止 人間科学部に都市生活学科、食物栄養学科を設置
平成 31 年 4 月	大学教育学部教育学科を設置 人間科学部子ども発達学科学生募集停止 文学部英語学科の収容定員変更 文学部総合文芸学科の学生募集停止
令和 2 年	中学校でストリーム制がスタート
令和 3 年 4 月	大学院文学研究科言語科学専攻（博士後期課程）の学生募集停止
令和 4 年	学院創立 130 周年
令和 5 年 4 月	大学（財）大学基準協会 大学評価（認証評価）の結果、大学基準適合認定を受ける
令和 6 年 3 月	大学人間科学部子ども発達学科、生活学科を廃止 大学院文学研究科英語学専攻（修士課程）の廃止
令和 7 年 3 月	大学院文学研究科言語科学専攻（博士課程）の廃止

4. 設置する学校、学部学科、入学定員等

(1)神戸松蔭女子学院大学大学院

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町 1 丁目 2 番 1 号

			入学定員
文学研究科	修士課程	国語国文学専攻	5 人
		心理学専攻	10 人
		合計	15 人

(2)神戸松蔭女子学院大学

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町 1 丁目 2 番 1 号

		入学定員
文学部	英語学科	50 人
	英語プロフェッショナル専修	

グローバルコミュニケーション専修

	日本語日本文化学科	60 人
	小 計	110 人
人間科学部	心理学科	70 人
	都市生活学科	100 人
	食物栄養学科	60 人
	ファッション・ハウジングデザイン学科	60 人
	小 計	290 人
教育学部	教育学科	60 人
	幼児教育専修	
	学校教育専修	
	小 計	60 人
	合 計	460 人

(3)松蔭高等学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町3丁目4番47号

入学定員

全日制課程普通科 350 人

(4)松蔭中学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町3丁目4番47号

入学定員

315 人

5. 学生・生徒数の状況（2024年5月1日現在）

神戸松蔭女子学院大学

学部	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
文学部	110	40	590	297
人間科学部	290	120	1,160	735
教育学部	60	24	420	191
合計	460	184	2,170	1,223

神戸松蔭女子学院大学大学院

文学研究科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
国語国文学専攻	5	2	10	3
心理学専攻	10	8	20	17
言語科学専攻	-	-	-	1
合計	20	10	40	21

※言語科学専攻は2021年4月から募集停止

松蔭中学校・高等学校

学年	入学定員	現員数
中学 1 年	315	79
中学 2 年	315	77
中学 3 年	315	76
合 計	945	232
高校 1 年	350	98
高校 2 年	350	130
高校 3 年	350	107
合 計	1,050	335

募集人員 中学校 150 高等学校 50（内部進学を除く）

6. 収容定員充足率

神戸松蔭女子学院大学

（2024 年 5 月 1 日現在）

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
学部全体	96%	96%	88%	70%	56%

7. 役員（理事・監事）に関する事項

(1)理 事

定数：11 人以上 16 人以内 現員：14 人

	役職名等	勤務形態	氏名	現職	就任年月日
1	理事長	非常勤	中村 豊	理事長	平 28.4.4
2	常務理事	常勤	田中 まき	院長	令 6.4.1
3	常務理事	常勤	徳山 孝子	大学教授・学長	令 6.4.1
4	常務理事	常勤	浅井 宣光	中高校長	平 22.4.1
5	常務理事	常勤	東 弘彦	法人事務局長	令 6.4.1
6	常務理事	常勤	橘 ゆかり	大学教授・副学長	令 6.4.1
7	常務理事	常勤	長谷川 誠	大学准教授・副学長	令 6.4.1
8	常務理事	常勤	芳田 克巳	高校副校長	平 23.4.1
9	常務理事	常勤	澤田 知之	中学副校長	平 30.4.1
10	常務理事	常勤	上野 智子	大学事務局長	平 30.7.1
11	常務理事	常勤	中川 雅博	中高教諭	令 4.4.1
12	理 事	非常勤	西原 興一郎	会社役員	平 31.4.1
13	理 事	非常勤	檜山 和司	会社役員	令 2.4.1
14	理 事	非常勤	山形 紀世美	同窓会長	令 2.4.1

(2)監 事

定数：2人以上4人以内 現員：2人

	役職名等	勤務形態	氏名	現職等	就任年月日
1	監 事	非常勤	山口 純	米国会計士	令 4.5.27
2	監 事	非常勤	光葉 正博	会社役員	令 2.4.1

(3)役員賠償責任保険の状況

- ・ 本学の役員等が、自らの業務に起因して損害賠償請求を受けた場合の役員の経済的・精神的な負担を軽減すると共に安定的な経営を行うべく、日本私立大学協会の団体制度である「私大協役員賠償責任保険制度」に加入している
- ・ 契約内容の概要は以下のとおり。
 - ① 保険期間:令和6年4月1日～令和7年4月1日
 - ② 支払限度額:500,000,000円
 - ③ 被保険者：理事、監事、評議員、管理職従業員、退任理事・評議員

8. 評議員に関する事項

定数：23人以上37人以内 現員：29人

	選任区分	氏 名	現職等	就任年月日
1	23-1-1	田中まき	院長	令 6.4.1
2	23-1-1	徳山孝子	大学教授・学長	令 6.4.1
3	23-1-1	浅井宣光	中高校長	平 16.4.1
4	23-1-1	東 弘彦	法人事務局長	令 6.4.1
5	23-1-1	橘ゆかり	大学教授・副学長	令 6.4.1
6	23-1-1	長谷川誠	大学准教授・副学長	令 6.4.1
7	23-1-1	芳田克巳	高校副校長	平 18.4.1
8	23-1-1	澤田知之	中学副校長	平 28.4.1
9	23-1-1	池谷知子	大学教授	令 6.4.1
10	23-1-1	竹中康之	大学教授	平 20.4.1
11	23-1-1	上野智子	大学事務局長	平 30.7.1
12	23-1-1	岩崎和彦	大学職員	令 6.4.1
13	23-1-1	中川雅博	中高教諭	令 4.4.1
14	23-1-1	大槻泰史	中高教諭	平 30.4.1
15	23-1-1	赤尾友規	中高教諭	令 6.4.1
16	23-1-1	上原美由紀	中高教諭	令 2.4.1
17	23-1-2	松田宣子	大学教授	平 20.4.1
18	23-1-2	山形紀世美	大学同窓会長	平 29.4.1
19	23-1-2	トーマス三香	中高同窓会長	令 2.4.1
20	23-1-2	富士ひろ子	会社役員	平 29.6.1
21	23-1-3	中村 豊	理事長・聖職者	平 13.4.1

22	23-1-3	沼田弘志	学識経験者	令 2.4.1
23	23-1-3	小林尚明	聖職者	令 3.4.1
24	23-1-3	西原興一郎	会社役員	平 15.6.1
25	23-1-3	檜山和司	会社役員	平 22.5.29
26	23-1-3	安福 朗	中学校・高等学校校長	令 4.4.1
27	23-1-3	加藤巡一	学識経験者	令 4.4.1
28	23-1-3	平井豊和	学識経験者	平 24.4.1
29	23-1-3	沢松順子	学識経験者	平 26.6.1

9. 教職員に関する事項

(1)教 員

	(専 任)	(常勤講師)	(非常勤講師)
大学 文学部	26 人	－	53 人
大学 人間科学部	38 人	－	108 人
教育学部	20 人	－	43 人
(大学専任教員の平均年齢)	(56 歳)	－	－
小計	84 人		204 人
高 等 学 校	27 人	3 人	18 人
中 学 校	15 人	5 人	14 人
小計	42 人	8 人	32 人
計	126 人	8 人	236 人

(2024 年 5 月 1 日現在)

(2)職 員

	(専 任)	(非常勤職員)	(派遣職員)
法人本部	(* 6 人)	1 人	－
大 学	66 人	30 人	17 人
高等学校	7 人	8 人	－
中 学 校	5 人	5 人	－
計	78 人	43 人	17 人

* 法人本部職員は、大学、高等学校の職員が兼務 (2024 年 5 月 1 日現在)

10. 校地・校舎等面積

(1)校地等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六 甲 キ ャ ン パ ス	60,461.43
野 外 訓 練 場	16,049.00
大 山 ロ ッ ジ	32,853.00
青 谷 キ ャ ン パ ス	17,997.16

千 と 勢 会 館	795.46
合 計	128,156.05
(2)校舎等面積	
(名 称)	(面 積 m ²)
六 甲 キ ャ ン パ ス	34,266.26
大 山 ロ ッ ジ	686.26
青 谷 キ ャ ン パ ス	21,975.89
千 と 勢 会 館	936.09
合 計	57,864.50

以上

II 事業の概要

1. 法人

学院運営のため、理事会、評議員会、常務理事会を以下のとおり開催した。開催日時、議案については次のとおり。

(理事会：5 回開催、評議員会：4 回開催、常務理事会：14 回開催)

【理事会】

①日 時 令和 6 年 4 月 12 日 (金) 午後 5 時 00 分～5 時 30 分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第 1 号議案 理事長の選任の件

第 2 号議案 理事の競業の承認の件

第 3 号議案 理事長の職務代理等の件

②日 時 令和 6 年 5 月 24 日 (金) 午後 4 時 30 分～5 時 30 分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第 1 号議案 中学校・高等学校校納金の改定に係る校則改正の件

第 2 号議案 中学校 GS／高校 GL コース／高校 AA コース共学化の件

第 3 号議案 2023 年度決算の件の件

第 4 号議案 2023 年度事業報告の件

第 5 号議案 日本私立大学協会評議員登録の件

③日 時 令和 6 年 6 月 21 日 (金) 午後 5 時 40 分～6 時 40 分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第 1 号議案 大学文学部日本語日本文化学科名称変更の件

第 2 号議案 大学教育学部教育学科名称変更の件

第 3 号議案 大学学費改定の件

第 4 号議案 中学・高等学校千と勢会館売却の件

第 5 号議案 2024 年度理事会、評議員会日程の件

④日 時 令和 6 年 10 月 4 日 (金) 午後 5 時 30 分～6 時 00 分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第 1 号議案 大学名称変更に伴う寄附行為改正の件

第 2 号議案 私立学校法改正に伴う寄附行為改正の件

第 3 号議案 大学教育学部教育学科名称変更の件

⑤日 時 令和 7 年 3 月 28 (金) 午後 5 時 30 分～6 時 30 分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第 1 号議案 中学校・高等学校の運営に係る借入金の件

第 2 号議案 2025 (令和 7) 年度事業計画の件

第 3 号議案 2025 (令和 7) 年度予算の件

- 第 4 号議案 大学学則変更の件
- 第 5 号議案 大学院学則変更の件
- 第 6 号議案 評議員会運営規程変更の件
- 第 7 号議案 役員報酬に関する規程変更の件
- 第 8 号議案 寄附行為施行細則変更の件
- 第 9 号議案 理事会運営規程変更の件
- 第 10 号議案 理事会業務の委任及び理事の職務に関する規程変更の件
- 第 11 号議案 常務理事会規程変更の件
- 第 12 号議案 理事の退任の件
- 第 13 号議案 評議員の退任の件
- 第 14 号議案 理事の就任の件
- 第 15 号議案 評議員の就任の件
- 第 16 号議案 内部統制システム整備の件
- 第 17 号議案 私立大学協会役員責任賠償保険への加入の件

【評議員会】

①日 時 令和 6 年 5 月 24 日（金）午後 5 時 40 分～6 時 40 分
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案

- 第 1 号議案 中学校・高等学校校納金の改定に係る校則改定の件
- 第 2 号議案 中学校 GS／高校 GL／高校 AA コース共学化の件
- （報告事項） 1. 決算の件
- 2. 事業報告の件
- 3. 日本私立大学協会評議員登録の件

②日 時 令和 6 年 6 月 21 日（金）午後 4 時 50 分～5 時 30 分
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案

- 第 1 号議案 大学文学部日本語日本文化学科名称変更の件
- 第 2 号議案 大学教育学部教育学科名称変更の件
- 第 3 号議案 大学学費改定の件
- 第 4 号議案 中学・高等学校千と勢会館売却の件
- 第 5 号議案 2024 年度理事会、評議員会日程の件

③日 時 令和 6 年 10 月 4 日（金）午後 4 時 30 分～5 時 20 分
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案

- 第 1 号議案 大学名称変更に伴う寄附行為改正の件
- 第 2 号議案 私立学校法改正に伴う寄附行為改正の件
- 第 3 号議案 大学教育学部教育学科名称変更の件

④日 時 令和 6 年 10 月 4 日（金）午後 4 時 30 分～5 時 20 分
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 中学校・高等学校の運営に係る借入金の件

第2号議案 2025（令和7）年度事業計画の件

第3号議案 2025（令和7）年度予算の件

第4号議案 大学学則変更の件

第5号議案 大学院学則変更の件

第6号議案 評議員会運営規程変更の件

第7号議案 役員報酬に関する規程変更の件

- （報告事項）
1. 寄附行為施行細則変更の件
 2. 理事会運営規程変更の件事業報告の件
 3. 理事会業務の委任及び理事の職務に関する規程変更の件
 4. 常務理事会規程変更の件
 5. 理事の退任の件
 6. 評議員の退任の件
 7. 理事の就任の件
 8. 評議員の就任の件
 9. 内部統制システム整備の件
 10. 私立大学協会役員責任賠償保険への加入の件

【常務理事会】

常務理事会は、原則として月1回開催し、学院の管理運営面の日常業務の処理に当たっている。開催日時・議案等については省略する。

なお、常務理事会の議決事項及び審議事項は次のとおりである。

（議決事項）

1. 教職員の人事、服務、給与及び諸手当の執行に関する事項
2. 職員の採用、昇任、昇格、異動、退職に関する事項
3. 予算の執行に関する事項
4. 全学に共通し、かつ、理事会の議決を必要としない諸業務の執行及び諸規程に関する事項
5. その他理事会から特に委任された事項

（審議事項）

1. 理事会に提案する事項
2. 建設計画に関する事項
3. 教職員組合との協定に関する事項
4. その他理事会から特に付託された事項

以上

2. 中学校・高等学校

(1) 執行部関係

校 長	浅井 宣光
副 校 長	澤田 知之
副 校 長	芳田 克巳
教 務 部 長	大槻 泰史
宗 教 部 長	坪井 智
生 徒 部 長	上原 美由紀
総 務 部 長	吉川 祐子
進路指導部長	中川 雅博
入試広報室部長	小林 裕典
事 務 長	内海 良介
事務長代行（2025 年 1 月より）平田健二	
事 務 次 長	岡田 知子

(2) 職員会議、その他の委員会等の開催状況

全教員（専任教諭、常勤講師、特任講師）による月 1 回の定例職員会議のほか、学期末の成績会議、年度末の修了・進級認定並びに中学校・高校の卒業認定のための成績会議を開催した。学校運営に関する諸事項を決定する校務運営会議（校長、副校長、校務部長）、校務学年主任合同会議（校務運営会議構成員、中高学年主任およびストリーム主任）を定期的に開催したほか、教科主任会議、各校務部会、教科会議を月例会議とした。入試委員会は、入試制度、広報や説明会運営について検討、立案した。特別委員会として、中学ストリーム・高校コース制導入にあたるカリキュラム委員会、高校の探究授業の内容について検討する「文理言語探究プロジェクト」を設置した。

(3) 教学関係

(ア) 「学校運営方針」および「生徒指導の重点」

「学校運営方針」および「生徒指導の重点」を年度初めの教員会議で確認し、共通理解を持った。各部署では日々の教育活動に落とし込むこととした。

（学校運営方針）

- ダイバーシティを認め合い、“Open Heart, Open Mind”の精神を実践する学級と学校づくり。
- 自学自習の習慣をつくる学級と学校づくり。
- 「いじめ」行為を許さず、人間関係を構築する力を育む学級と学校づくり。

（生徒指導の重点）

- 適切な身だしなみ、立ち居振る舞い。公共交通機関でのマナー等に関するクレームゼロを目標に。
- スマートフォン、デバイスの適切な利用の仕方と情報モラル徹底。
- 直接の言動やデジタル上の「いじめ」行為、嫌がらせ行為の予防、対応、再発防止。

○校内外での災害発生の際の安全確保と心構え

(「大災害対応マニュアル」の確認、HP「緊急時情報入力フォーム」の周知徹底)。

(イ) 中学ストリーム制・高校3コース制(高1、高2)と高校3年生(新課程導入初年度)

中学ストリーム制は2020年度中学入学生より、高校3コース制は2023年度より導入し、2024年度は中1～高2の5学年となった。教育活動の4つの核となる分野(国語力、英語力、探究学習、ICT)での習熟を共通の教育目標とし、異なるアプローチで行う。中学はDS(ディベロプメンタル ストリーム)とGS(グローバル ストリーム)、高校はLS(ランゲージ&サイエンス)、AA(アスリート・アーティスト)、GL(グローバルリーダー)の3コースを展開した。高3学年は新課程1期生でコースはない。以下、ストリーム、コースおよび高3学年の教育活動について概要を述べる。

1) 中学DS(ディベロプメンタル ストリーム)の取り組み

中学DSは2クラスで運営し、すべての学年で日本語の基礎や表現力を育成する「国語探究」授業、一人一台のタブレットを利用して英語コミュニケーション力を育成する「ICT English」授業を行った。また英語ネイティブ教員による英会話授業(「英語オーラル」)はグレード別(習熟度別)に実施した。探究学習については、後述の「奉仕活動の日」活動に関連付けて取り組んだ。また理数系進路を視野に入れ、数学の応用力を育成する課外講座「数学特進講座」を各学年別に週1回、開講した。定期考査のほかに各学期に実力試験を実施したほか、希望者対象の実力試験も実施した。各学年DSの取り組みは以下のとおり。

中1は「人を思いやる 自分を高める」を学年目標とした。毎日の朝の学習の時間にタブレット端末を使用して手書きノートアプリを利用した学習に取り組み、2学期以降は読書の時間とした。各自「連絡帳」を持参させ、時間割、所持物、宿題などを記入して学習習慣づくりと自己管理ができるようにした。また各科目の補習や中1DS独自の希望者講座を設けたほか、定期考査や実力考査前には「放課後自主学习室」を開いた。総合的な学習ではテーマを「マナー」とし、スクールカウンセラーによる「こころのマナー」講座に取り組んだ。

中2では、学年目標「正しく問い、深く考える。～生活のこと、学習のこと～」を設定し、家庭・学校の生活サイクルづくりと学習する姿勢づくりをセットと考えて生活を送るよう指導した。朝の学習の時間には、手帳へのいわゆる「3点記入」(起床時刻・就寝時刻・勉強時間)とともにタブレットによるWeb小テストを実施した。毎週土曜日放課後には、希望者対象の「土曜勉強会」を実施したほか、補習として定期考査対策会や実力考査解説会も開催し、積極的に学びに向かう姿勢づくりをした。各学期末には、希望者対象の発展講習(国語、数学、英語、理科、体育)により、通常授業とは異なる学びをすすめた。また学習の未到達者を対象とする補習も行った。

総合的な学習では「いのち」をテーマに出産、育児、学校生活、出生前診断、救急医療など「いのち」に関わる多様な内容について、映像学習や講演会を通じ学習した。実際に乳幼児に触れてみて母親の体験談を聴く「赤ちゃん先生」では、「いのち」を体感しながら理解する経験をした。

中3は前年度から引き続いて「ともに歩む」を学年目標とした。学習面では、朝礼前の5分間「学びのとき」を国語、数学、英語の学習ドリルに取り組む時間とした。長期休暇中には希望者対象の各教科特別講座を開講したほか、定期考査ごとに学習未到達者の補習も実施

した。中学学習の総まとめである3学期の基礎学力判定試験の準備として、過去問題を宿題としたほか、プレテストを2回実施して十分な準備ができるよう指導した。総合的な学習「平和」では、世界の状況や被爆者講演、沖縄修学旅行を通じた学習を行い、学年末には各自が「平和への提言」をまとめた。進路学習では、自分の適性や学問、職業について調べたほか、小論文作成の基礎教材を利用して文章力を養成し、3学期には小論文の試験を受験した。また、高校3年生による講演会「進路ライブ」を実施した。

2) 高校LS（ランゲージ&サイエンス）コースの取り組み

高校LSは、特進クラス1、標準クラス2の3クラス体制とし、特進クラスは国公立および難関私大の文理系、標準クラスは中堅私大文系や併設大を進路目標としている。「言語探究」授業（高1～高3）については、高1、高2とも環境問題啓発活動「Blue Earth Project」の取り組みや、課題に対する問いから探究する「Question X」プログラムを実施した。なお、「言語探究」に関するプロジェクトチームは3年間のシラバスを作成中である。英語力の到達目標は英検2級レベル以上としている。

高1では学年目標を「彩」（いろどり）とし、各自が互いの個性を尊重し、そのことが多様性を認め合う姿勢につながるよう様々な機会に指導した。朝礼前の「朝の学びのとき」には、英語・数学・国語・社会の各教科学習を行った。理系進路を考える生徒のために数学特進講座を平日放課後に実施したほか、「学びの興味を育てる放課後プログラム」として希望者対象の課外講座を開催した。特進クラスを対象に土曜放課後の「実力対策講座」も開講した。

進路学習については、1学期には学問研究と適性診断を実施し、2学期には学外に進路イベントへのオンライン参加や、各大学教員による模擬授業を受講した。小論文についても学習する時間を取り、小論文模試を受験したのちに対策講座を受講し、志望理由書の作成の仕方について学習した。

高2では「生きぬく力・思いやる心～自立・自律～」を学年目標とした。進路決定の作業が本格化するなか、各自が自律心をもって自立して学習する姿勢作りを目標とした。月曜日放課後には希望者対象の「放課後進学補習」を開講し、社会と理科の各分野に関する入試対策講座とした。土曜日放課後には、特進クラス対象「入試対策講座」を開講し、英数国の入試対策講座を行った。小論文作成や志望理由書の書き方の指導についてはニュースを選んで要点をまとめ、自分の考えや意見をまとめる「MY NEWS」の取り組みを行った。

環境問題啓発活動 Blue Earth Project では高1、高2希望者が「おかやまSDGsフェア」（8月岡山コンベンションセンター）、「ロハスフェスタ万博2024—オシャレにかわいくエコを实践しよう—」（10月大阪万博公園）に参加した。また高2生徒については、3学期に高3生徒と合同でハーバーランドUMIEでの「SAF（持続可能な航空燃料）」の普及啓発活動に取り組んだ。

3) 高校AA（アスリート・アーティスト）コースの取り組み

高校AAは高1、高2の各学年1クラス体制とし、学外の地域クラブや各競技団体に所属する「アスリート」（競技選手）、「アーティスト」（音楽・舞台芸術活動家）をめざす生徒が在籍する。平日授業は5校時まで、土曜授業は行わないカリキュラムとしており、学外の専門種目の取り組みと高校普通科課程の学修を両立できるようにしている。2024年度はサッカー、

ゴルフ、クラシックバレエ、ダンス、能楽、バレーボール、テニスに取り組む生徒が在籍している。

コース目標を「千日の鍛錬、一瞬の業」とし、取り組む種目は異なっているにもかかわらずトップアスリート、トップアーティストを目標とする者どうしで刺激を受け合っている。月例の「AA 特別講座」では心理学、トレーニング、コーチングなど、将来のセカンドキャリアに備えた幅広い学びを行った。探究学習では、LS コースと同様のプログラム（Blue Earth Project を通じた環境問題啓発活動、課題に対する問いから探究する「Question X」プログラム）を行った。遠足、校外学習、高2 海外研修は LS コースと合同で実施しシンガポール研修を実施した。

4) 中学 GS（グローバル ストリーム）/高校 GL（グローバルリーダー）コースの取り組み

中学 GS/高校 GL は各学年 1 クラスとし、ストリーム・コース制の柱である国語、英語、探究、ICT の 4 分野について、教育水準をグローバルスタンダードとするべく中 1～高 2 の 5 学年で取り組んだ。毎日 7 校時までの授業と土曜授業を実施し、各学年の取り組みに関連性・連続性をもたせて学びの継続と個々の成長を意識した。学年を越えた縦割り活動も多用しているため、学年目標は 2 学年ずつとし以下のとおり設定した。

○中 1、中 2 “Know the World: Embrace the Unknown.”

○中 3、高 1 “Understand the world: Build Bridges.”

○高 2 “Explore the world: Make your Mark.”

朝礼前の「朝の音読」の時間は他学年との合同で行う場合もあった。時事ニュースや小説、演劇を題材として音読や各自のプレゼンを行った。表現力向上のため発声法のトレーニングも行った。毎日の学校特設科目「ICT English」授業では各国講師との間でオンライン英会話を実施した。中学の土曜授業は聖ミカエル国際学校と連携する英語イマージョン授業とした。学期ごとの探究学習の成果については、各学期末にプレゼンテーションする時間を持った。到達した英語力については中 1～高 2 学年で英検 1 級（CEFR C1）2 名、準 1 級（CEFR B2）9 名、2 級（CEFR B1）34 名、準 2 級（CEFR A2）54 名となっている。各国中高生が参加するオンライン「世界合同プレゼンテーション」（英語によるグループプレゼンテーション）では各学年が入賞した。中 3 の「フィリピン研修」では、「英語を学ぶ」のではなく、世界の SDGs を「英語で学ぶ」ことを目的とした。なお中 3 は DS 同様、3 学期に基礎学力判定試験を受験した。

高校では、英語力を一層向上させることとアントレプレナーシップ育成を目標とし、動画作成や生成 AI についても適切に活用するスキルを学んだ。高 1 のカナダ研修では同国アルバータ州に滞在して多民族国家カナダの生活を実体験するとともに、現地高校での留学経験を積んだ。高 2 では修学旅行を企画した北海道を訪問した。下表は学年ごとに設定した探究学習のテーマと習得すべきスキル、教科横断のテーマ一覧である。

↓更新日↓	松蔭GS(グローバル・ストリーム)・松蔭 GL(グローバル・リーダー) 探究&教科横断テーマ		
2023/4/1	1学期	2学期	3学期
中学1年GS 環境と防災	論理(具体と抽象)	論理(意見と根拠)	論理(意見と事実:主観と客観)
	ICTスキル	物の見方(時間・場所・立場など)	アイデンティティ
	国際社会の平和と発展(SDGs)	問いの想像と創造	地域性(Kobe in Japan, Japan in the world)
中学2年GS いのちと伝統文化	論理(グルーピング、多様な視点)	論理(対比、多様な視点)	論理(仮説と検証)
	女性と将来	賛否:答えのないもの	アイデンティティ
	国際社会の平和と発展(SDGs)	伝統(国や地域)と文化	受容と公正(オープンハート&オープンマインド)
中学3年GS 私たちの社会	論理(予想される反論・反駁・展望)	論理(理由①と理由②のまとめ方)	論理(既習事項の連結及び統合)
	国際社会の平和と発展(SDGs)	未来デザイン(妄想、想像、創造)	アイデンティティ
	社会発展による恩恵と弊害	社会システム	日本と世界(グローバル視野)
高校1年GL 社会・環境・経済	論理(小論の構成と技法)	論理(対比、反駁、例示、婉曲)	論理(反駁、多様な視点)
	Well being vs Money	表現(対象、説得、興味関心)	アイデンティティ
	国際社会の平和と発展(SDGs)	地域性(地域と社会の関係)	環境と経済活動
高校2年GL マイ・テーマ	要約と意見論述	要約と意見論述	要約と意見論述
	マイ・テーマを設定し、そのテーマについて各教科でレポートを作成する。同時DMで50ヶ国以上200人以上の方にインタビューを行う。		
	【マイテーマ】×【歴史総合】【政治経済】【情報】【家庭科】【理数】【GL探究】⇒GL探究では各教科からのレポートをまとめたり、文献調査も行う。		

5) 高校3年生の取り組み

高3学年は3クラス体制で運営した。学年目標は高校3年間同一の“If you can dream it, you can do it.”とした。新課程の導入学年であり、進路希望に対応するため平日と長期休業中の進学補習を開講したほか、進路説明会、看護医療系ガイダンス、併設大学部学科説明会、各大学・専門学校による校内オープンキャンパスを開催して最新の進路情報を得た。志望理由書作成や小論文の指導は、外部業者を活用しながら学年団教員と国語科教員が担当した。また指定校推薦や総合型選抜対策として面接の指導も実施した。3学期には大学入学共通テスト対策、私大一般入試対策の補習を実施した。

「言語探究」授業ではアントレプレナーシップ学習として、グループの起業体験を行うゲーム形式のプログラムに取り組み、商品開発、広報、販売にいたる疑似企業活動を経験した。

Blue Earth Project については2学期末までに進路を決定した生徒が3学期に取り組んだ。「SAF(持続可能な航空燃料)」の普及啓発活動としてハーバーランド Umie(高2と合同)、神戸空港開港記念イベント、阪急西宮ガーデンズで取り組んだ。

(ウ) 式典・学校行事・校外研修

入学式(4/8 中学・高校合同)、高校卒業式(3/1)、中学卒業式(3/21)および各学期始業式、終業式を挙行了した。

文化的行事として文化祭(4/26、27 校内)、全校団体鑑賞「狂言」(6/11 神戸文化ホール)、高校生対象「古典装束鑑賞会」(6/5)、DS中1、中2観劇「ピッコロわくわくステージ」(6/5 尼崎市ピッコロシアター)、DS中1音楽鑑賞「わくわくオーケストラ」(11/13 兵庫県立芸術文化センター)を実施した。また、「百人一首大会」(3学期、中学各学年 DS/GS 合同)も行った。健康安全・体育的行事として体育祭(9/27 中高合同)、球技大会(各学期末)を行った。

宿泊研修・遠足・校外学習として以下を実施した。

○修学旅行・宿泊研修

高2LS/AA シンガポール海外研修(10/20～24) シンガポール

中3DS中3修学旅行(10/22～25)沖縄本島

DS中1山のキャンプ(8/3～8/5)鉢伏高原

DS中2 British Hills 英語研修(11/1～11/3)福島県天栄村

GS中2直島アートの旅研修(10/31～11/2)香川県直島

GS 中 3 フィリピン研修 (2/20～3/5) フィリピン イロイロ市

GL 高 1 カナダ研修 (10/5～11/4) カナダ アルバータ州

GL 高 2 修学旅行 (2/17～2/20) 北海道札幌・小樽

○春の遠足 (5/2)

DS 中 1 灘丸山公園

DS 中 2 再度公園

DS 中 3 森林植物園

GS 中学全学年/GL 高 1 神戸須磨おらが山、多井畑厄神、奥須磨公園

LS/AA 高 1 六甲山アスレチックパーク

LS/AA 高 2 須磨浦山上遊園

高 3 布引の滝・ハーブ園

○その他の校外学習

DS 中 1 須磨シーワールド (10/25)

GS 中 1 人と防災未来センター JICA 関西 (6/6)

神戸 atoa 見学&神戸港ゴミ拾い (10/25)

GS 中 2 万博記念公園 (6/6)

GS 中 3 西宮セイバンスマイル保育園 (SDG s お遊戯講座・保育体験) (6/6)

ポートアイランド下水処理場・動物王国 (10/25)

美野丘小学校英語交流授業 (2/7)

GI 高 1・高 2 西宮船坂ファームガーデン農業体験 (6/6)

LS/AA 高 1 奈良公園 (10/25)

GL 高 2 有馬温泉動画制作 (10/25)

勤労生産・奉仕活動行事としては「奉仕活動の日“SHOIN School Campaign”」(2/15)を実施した。サービスラーニングの一環で各コース、クラス、グループごとに事前に社会貢献について検討し、準備作業を含めて積極的に活動した。

DS 中 1 王子公園駅、灘駅周辺、学校周辺の清掃活動

DS 中 2 寄附・募金「いのちの支援活動」

DS 中 3 古着回収とフェアトレードチョコレート販売

GS 中 1 プラスチック使用削減の啓発

GS 中 2 コンシャスバイアス（偏見）についての啓発動画作成

GS 中 3 校外研修（保育園、小学校交流授業）の報告動画作成

LS/AA 高 1 SDG s に関するプレゼン

LS/AA 高 2 灘区リバークリーン地域清掃（都賀川流域と山手幹線道路沿い）

GL 高 2 高 1 外国人移住者への学習サポート案をオンライン「世界合同プレゼン」で英語プレゼンテーション

(エ) 英語・グローバル教育

英語ネイティブ教員 4 名がフルタイムで勤務し、生徒が日常的に英語に触れることができるようにしている。English Room は昼休み、放課後に開放し、生徒と英語ネイティブ教員がコミュニケーションの機会を持てるようにした。また DS 中学の「英語オーラル」授業はグレ

ード別（習熟度別）としているほか、学校特設科目「ICT English」ではタブレットを利用したスピーキング練習やオンライン英会話を実施した。英語力の到達目標として、中学 DS/高校 LS・AA では英検 2 級以上とし、第 3 回英検（1 月実施）を全校生徒の受験を義務付けた。高校卒業時に英検準 1 級以上、TOEFLiBT80 以上を目標とする中学 GS/高校 GL では、TOEFL Junior と TOEFL Primary の校内受験も行った。課外講座「英検対策講座」（2 級、準 1 級）を開講し、希望者が学年、コース、ストリームの枠組みを越えて受講した。

聖公会関係学校 St. Michael International school との連携により、高校各学年生徒が学期毎に「SMIS 土曜学校スクールアシスタント」プログラムに参加し、インターナショナルスクールでの英語のみの活動を経験したほか、中学 GS では土曜日に英語イマージョン授業「Shoin Global Saturday English Class」を実施した。また GS 中 1 は St. Michael International school「サマーキャンプ」（計 10 日間）も必修とした。関西国際学園が主催する英語サマーキャンプにも希望者が参加した。

中学英語コンテスト（3/15 英語スピーチ・レシテーションコンテスト）では、DS 生徒は英語レシテーション（暗唱）とスピーチ、GS 生徒は GS/GL の取組みを紹介する英語プレゼンテーションを行った。

海外姉妹校交流では、韓国の姉妹校信明高校・聖明女子中学校からの訪問団（2 月、生徒 20 名、引率教員 3 名）を受け入れた。

高 2LS/AA 生徒はシンガポール海外研修を実施した。聖公会大聖堂を訪問し、地元大学生との英語交流も行った。また自由時間を多く設定して現地の人々と交流できる機会を増やした。

希望者対象のグローバル研修として、夏休み中の短期語学研修（7/28～8/10 ニュージーランド St. Peter's 校。18 名）、異文化体験研修（8/16～8/21 韓国信明高校・聖明女子中学校。20 名）を実施した。

高校の 1 年間単位認定留学制度を利用し、7 名（うち 4 名終了。現在 3 名が留学中）がカナダ、米国、ブラジルでホームステイしながら現地高校に通学した。2024 年度より導入したターム留学制度を利用し、1 名がオーストラリアでのターム留学（3 ヶ月）を経験した。また 1 年留学・ターム留学の校内説明会を開催し、中 1～高 2 学年の生徒・保護者約 50 名が出席した。

（オ）各大学、学外団体との連携プログラム

GS 中 3/GL 高 1	神戸大学経営学部連携アカデミックインターン（11/27）
DS 中 2	梅花女子大学キャンパスツアー・中学生向けワークショップ
LS 高 2 特進	神戸大学国際人間科学部環境共生学科ラボ見学（7/5）
LS 高 1 高 2	関西学院大学キャンパスツアー（7/5） 関西大学キャンパスツアー（12/5） 立教大学キャンパスツアー（3/15、16）
全校希望者	世界遺産検定（9/7）
DS/GS 中 3	灘区納税協会 租税教室（6/19）
GS/GL	TCC（東京キャッチコピークラブ）連携オンライン授業（5・13）
DS/GL 中 2	神戸松蔭女子学院大学連携なぎなた特別授業（11/13）
DS/GL 中 2	OSK ダンス特別授業（1/29）

AA 高 1 OSK ダンス特別授業 (1/29)
 全校希望者 神戸市社会福祉協議会主催 夏休みワークキャンプ(市内の児童館、保育園、介護サービス事業所。中高 30 名)
 全校生徒 兵庫県警サイバー犯罪被害防止教室 (7/10)
 全校生徒 兵庫県警サポートセンター薬物乱用防止教室 (10/29)
 AA 高 1～高 2 「AA 特別講座」
 心理学 (4/15 5/27 6/17)
 元大リーガー岡島秀樹氏講演会 (生徒・保護者 7/11)
 トレーニング (9/18 10/28 11/18)
 コーチング (12/9 1/27 2/3)」

(カ) 進学対策と受験指導

校長が主宰する進路指導中央会議を定期的に開催し、生徒の進学・進路指導を学校全体で支援する態勢を構築している。会議では過去の進路結果と在校中の成績推移、在校生の成績と進路希望を学年の枠組みを越えて共有し、受験指導に活用できるようにした。

自習室は高校生用、中学生用各 1 室を設置したほか、第 3 自習室「松蔭スタディーカフェ (S-Café)」を設けた。

補習授業として、教員が担当する平日の補習、長期休暇中の進学補習のほか、外部講師による大学進学対策補習「受験対策特別講座 (英語)」(高 2～高 3)、「受験対策特別講座 (AO 入試)」(高 3)を開講した。理系・医療系進学希望者を支援するため、中学各学年と高 1 に「数学特進講座」を週 1 回放課後に開講した。

「進路ライブ」では卒業生や高 3 生徒が後輩・下級生に対し、進路決定や学習方法についてアドバイスした。

高校 LS コースでは各大学、併設大学の担当者を招き、校内オープンキャンパスや学部学科説明会を開催した。高校 GL コースでは、総合型選抜の対策を行った。高校 AA コースでは各生徒の専門種目とも関連させた進路選択ができるよう担任が支援している。

(キ) いじめへの対応、ニーズがある生徒への「特別支援」

学級への適応感やいじめなどのトラブルの有無など生徒状況を把握するため、「生活アンケート」を年間 2 回実施した。アンケート結果は生徒指導や生徒個人面談、保護者面談の資料として活用した。

いじめ事案の対応については、該当事案が判明した場合に聞き取り作業など調査を行うとともに、必要に応じてアンケート調査を実施し、事実関係の把握、生徒ケア (いじめ被害生徒) ケアと指導 (いじめ加害生徒)、周辺生徒への指導により、いじめ被害者と保護者、学校、いじめ加害者と保護者間の 3 者の対話を重視しながら、丁寧に問題解決を図ることとしている。

ニーズに対する「特別支援」については、2024 年度より「合理的配慮」が義務化された。法の趣旨に則り、心身の障害や発達障害、特性ある生徒個々に対する適切な支援を行うものとした。特別支援委員会では個別の指導計画を策定したほか、個々の特性や状況についての情報を共有、分析し、定期考査の別室受験や試験問題用紙の拡大などの措置を行った。特別支援の専門家による「個別指導教室」では、ソーシャルスキルトレーニング (SST) を実施し

た。認知訓練教材を使用する「特別支援教室（芦塚教室）」も並行して運営し、中学生、高校生が出席した。特別支援委員会の対象ではない生徒についても、出身小学校・中学校での指導歴を保護者同意のうえで情報共有し、指導の参考資料とした。また学校文書関係はユニバーサルフォントの使用を原則とした。

不登校生徒への支援については、高校「在宅学習単位認定制度」による特別教育課程を運用している。本制度に基づき2024年度2名の卒業を認定した。登校するが教室での授業に出席しにくい生徒については、別室登校・学習場所として保健室、図書館を利用させながら、出来得る限り授業への出席を促した。個々の状況を観察し、学年団教員、保健室、相談室で連携し、生徒及び保護者支援を継続した。中学生については、校内相談室への登校や校外施設での学習や活動についても、文科省の通達にしたがい学校長の判断により出席扱いとするなどして柔軟な対応を行った。

相談室には公認心理師資格を持つ3名のスクールカウンセラーを配置し、平日は毎日開室し、生徒と保護者および教職員と面接を行った。児童精神科医師によるスーパービジョン「カウンセリングカンファレンス」を定期的に開催した。保護者同士のピアカウンセリングの機会として「保護者おしゃべり会」を各学期1回開催し、校長、スクールカウンセラーが出席した。

日本語力が十分ではない「帰国生・国際生」への支援については、個別日本語（国語）特別授業（中1、中2生徒）を実施したほか、高校「国際生」については、学校推薦型選抜（指定校推薦）の対象としないことと条件に評定等において特別措置を行っている。

（ク）人権教育、性教育

2024年度生徒の人権講演会として、尼崎市出身のシンガーソングライター悠以氏による講演会「多様な性を伴う生き方を理解するために」を開催した。教員研修は、元養護教諭の井上鈴佳氏の講演会を開催した。多様な性を認め合い、誰もが自分らしく自信をもって生きる社会の実現を図る必要性について研修した。

性教育は、生徒部性教育係が中心となり、下記講演会、出張授業を実施した。

○神戸市思春期ヘルスケア 専門職（助産師）によるデリバリー授業（2/5 中1対象）

講師：杉原真理（助産師 産後ケアハウス杉原 hara 代表）

テーマ：命の大切さ

○思春期ピアカウンセリング（2/19 中2対象）

講師：高田昌代（神戸市看護大学・NPOひょうご思春期ピアカウンセリング研究会）

思春期ピアカウンセラー

テーマ：色々な考え方や価値観があることを知り、自分の人生について考える

○神戸市思春期ヘルスケア 専門職（助産師）によるデリバリー授業（7/4 中3対象）

講師：杉原真理（助産師 産後ケアハウス杉原 hara 代表）

テーマ：自分の体を大切にしよう（性感染症・思いがけない妊娠など）

○小さいいのちのドア・いのち語り隊による性教育講演会（3/7 高2対象）

講師：永原郁子（マナ助産院院長・小さいいのちのドア代表）

テーマ：いのちを大切に使う方法について（男女交際、セックス、人工妊娠中絶など）

（ケ）キリスト教主義教育

1) 全校礼拝・特別礼拝

宗教教育、キリスト教主義教育として、中学・高校各週1回の「朝の全校礼拝」を守った。講話担当はチャプレンや宗教部担当教員だけでなく、各学年の教員とした。

「お誕生日礼拝」を月1回行い、誕生月の生徒、教職員に「誕生日カード」を配布し、図書館作成の「あなたへのお勧め図書紹介」も同封した。特別礼拝は下記のとおり実施した。

4月13日(土) 入学感謝礼拝(神戸聖ミカエル大聖堂)

説教:日本聖公会神戸教区 瀬山会治司祭

4月25日(木) イースター礼拝(講堂)

説教:日本基督教団 神戸栄光教会 山内慎平牧師

6月14日(金) 1学期宗教週間 特別礼拝(講堂)

説教:頌栄短期大学 理事長・院長 相澤弘典先生

11月9日(土) 逝去者記念礼拝(レオノラチャペル)

11月14日(木) 2学期宗教週間特別礼拝(講堂)

説教:日本基督教団 高槻日吉台教会 吉岡恵生牧師

12月19日(木) クリスマス燭火礼拝(講堂)

説教:日本基督教団 芦屋西教会 若林一義牧師

1月16日(木) 震災記念の祈り(レオノラチャペル)

1月17日(金) 震災記念礼拝(講堂)

2月22日(土) 卒業感謝礼拝(H3)(神戸聖ミカエル大聖堂)。

2) その他のキリスト教主義教育活動について

授産施設「にじ作業所 パン工場なないろ」支援のパン販売日を設定したほか、全校礼拝や行事の際の奏楽奉仕者をめざすオルガンレッスンを開講し、オーディションを経た生徒7名が学校オルガニストより指導を受けた。また「チャペルニュース」を定期的に発行し、保護者にもデジタル配信した。書道部員による年間聖句、毎月の聖句を教室や廊下に掲示した。聖公会神戸教区の神戸聖ヨハネ教会で行われている月1回の「子ども食堂」活動に生徒がボランティアとして参加した。その他関連活動は次のとおり。

5月11日(土) にじ作業所パン販売

6月10日(月)～15日(土) 1学期宗教週間

6月10日(月)～15日(土) チャリティブックバザー(図書館)

6月17日(月) オルガンコンサート(講堂)

6月19日(水)・26日(水) にじ作業所パン販売

7月9日(火) 子ども食堂のお手伝い(神戸聖ヨハネ教会)

7月13日(土) にじ作業所パン販売(「オープンスクール」にて)

7月15日(月) 広島平和礼拝事前学習(神戸聖ヨハネ教会)

8月5日(月)～6日(火) 広島平和礼拝

8月20日(火) 子ども食堂のお手伝い(神戸聖ヨハネ教会)

8月24日(土) にじ作業所パン販売(「オープンハイスクール」にて)

9月10日(火) 子ども食堂のお手伝い(神戸聖ヨハネ教会)

10月15日(火) 人権教育教職員研修会『井上鈴佳』(体育館大会議室)

11月1日(金)～22日(金) クラス講話(レオノラチャペル)

- 11月 9日(土) 逝去者記念礼拝(レオノラチャペル)
- 11月11日(月)～16日(土) 2学期宗教週間
- 11月11日(月)～16日(土) チャリティーブックバザー(図書館)
- 11月12日(火) 人権教育講演会『悠以』(講堂)
- 11月12日(火) 子ども食堂のお手伝い(神戸聖ヨハネ教会)
- 11月13日(水)・20日(水) にじ作業所パン販売
- 11月13日(水)・15日(金) クリスマスグッズ作り(レオノラチャペル)
- 12月 9日(月)～13日(金) ピースツリーメッセージカードづくり
- 12月10日(火) 子ども食堂のお手伝い(神戸聖ヨハネ教会)
- 12月14日(土) ピースツリー・核廃絶署名活動・にじ作業所パン販売
(小学生・中学生対象「クリスマスの集い」にて)
- 1月11日(土) にじ作業所パン販売
- 1月14日(火) 子ども食堂のお手伝い(神戸聖ヨハネ教会)
- 2月 1日(土) にじ作業所パン販売
- 2月12日(水) オルガンレッスン生卒業セレモニー
- 3月11日(月) 震災記念碑めぐり

(コ) 生徒会活動、課外活動、学外の個人活動

1) 生徒会活動

文化祭、体育祭、各学期末の球技大会を生徒会役員を中心に運営した。中高合同のアセンブリー(生徒集会)を学期に1回開催し、生徒顕彰等を行った。

新入生(中学、高校)対象の「クラブ紹介」のほか、「クラブ活動見学ツアー」を実施した。生徒会役員選挙の立候補者立会演説会および生徒総会を講堂で行った。生徒会役員選挙は各自のタブレットを使用する電子投票により実施した。

2) クラブ活動

活動中のクラブ活動は以下のとおり

○運動部

アーチェリー部、水泳部、ソフトテニス部、バドミントン部

○文化部

E.S.S.部、演劇部、華道部、茶道部、食物部、書道部、箏曲部、ハンドベル部、BAND(軽音楽)部、BAND(フォークソング)部、美術部、マンガ研究部、モダンダンス部

○同好会(10会)

少林寺拳法、ソフトボール、卓球、テニス、バスケットボール、バレーボール、コーラス、写真、バイオリン・アンサンブル、バレエ研究、放送、マンドリン

3) クラブ活動、校内課外活動で全国大会(同等の大会等)・世界大会へ出場したもの

○アーチェリー部

- ・第43回全国高等学校アーチェリー選抜大会

○書道部

- ・第40回成田山全国競書大会
- ・第19回全日本小学生中学生書道展

- ・第 40 回みなぎの書道展
- 全校読書運動
 - ・ポプラ社全国学校図書館 POP コンテスト（2023 年度作品）
- 授業（国語）
 - ・第 35 回伊藤園「お〜い お茶」俳句大賞
- クラス
 - ・English Central Award（2023 年度 GS 中 1）
 - ・With The World 主催 第 2 回世界合同プレゼンテーション
- 4）学外個人活動で全国大会（同等の大会等）・世界大会へ出場したもの
 - ゴルフ
 - ・文部科学省楯争奪第 44 回全国中学校ゴルフ選手権春季大会（2023 年度）
 - ・サントリーレディースオープン
 - ・日本女子オープンゴルフ選手権
 - ・IMGA 世界ジュニアゴルフ選手権
 - ・宮里藍インビテーション
 - ・第 276 回 PGC ツアーオープントーナメント
 - ・Sky レディース ABC 杯
 - ・JLPGA ステップアップツアー京都レディースオープン
 - ・全国高等学校ゴルフ選手権春季大会
 - ・ヤマハハナサカレディースゴルフトーナメント
 - サッカー
 - ・JFA 第 28 回全日本 U-18 女子サッカー選手権大会
 - スピードスケート
 - ・2024 ASIAN OPEN SHORT TRACK SPEED SKATING TROPHY
 - ・第 79 回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会ショートトラック競技
 - ・第 48 回全日本選抜ショートトラックスピードスケート選手権大会
 - ・全国高等学校総合体育大会第 74 回全国高等学校スピードスケート競技選手権大会
 - ・第 47 回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会
 - フィギュアスケート
 - ・アンリ・シャルパンティ杯争奪第 32 回 PI フリースケーティング大会
 - ・全国高等学校総合体育大会第 74 回全国高等学校フィギュアスケート競技選手権大会
 - ・全国中学校体育大会フィギュアスケート競技
 - テニス
 - ・ITF 兵庫国際ジュニアテニストーナメント
 - ・ASC チャレンジカップ
 - ・ITF Juniors in Japan 関東テニス協会 G4B 大会
 - クラシックバレエ
 - ・Brilliant stars バレエコンペティション
 - ・YBC バレエコンクール
 - ・PIBC バレエコンペティション
 - ・第 37 回こうべ全国洋舞コンクール

- ・第 11 回湘南バレエコンペティション
- ・ジャパンバレエコンペティション兵庫 2024
- ・Victoire Ballet Competition

○武術太極拳

- ・第 32 回 JOC ジュニアオリンピックカップ武術太極拳大会

○声楽

- ・第 17 回イタリアコンコロソ Music Arte

○デザイン・美術

- ・手帳の匠 SELECTION 2024 表紙デザイン部門
- ・第 34 回全日本アートサロン絵画大賞展

(サ) 安全教育、防災教育

4 月 9 日、火災報知器に関する教職員講習会を開催し、非常ベル作動の際の対応や防災監視盤の取り扱い研修を行った。4 月定例職員会議後には、全教員による警報発令時、大災害発生時の学校対応について確認した。校内の災害用備蓄品、災害ベンダーについても適切に対応できるようにしている。5 月には応急処置講習会を行い、AED を使用した心配蘇生法について研修した。

夏期期間には「熱中症警戒アラート」に加えて「熱中症特別警戒アラート」の運用が始まった。WBGT35 度以上が予測された場合、前日に発令されるが、その場合にはグラウンド、体育館等エアコンのない場所でのクラブ活動など運動を原則中止とした。また夏休み中のクールスポットとしてエセルホールを開放した。

生徒を対象とする安全教育・防災教育としては、避難訓練を各学期に実施し、火災発生、地震発生、不審者侵入など緊急時の避難経路と点呼確認の態勢を確認した。「大災害対応マニュアル」の常時携行を指導し、万一の災害発生時の心構えや対応を確認した。また学校ホームページの安否確認入力フォームの取り扱いも指導した。

歩きスマホによる事故や自転車事故などの交通事故の多発が社会問題化している。全校生徒を対象に交通安全講習会を開催し注意喚起を行った。

(シ) 学校 IT 化、ICT 教育推進

校内 ICT 環境整備、デバイスやアカウントの管理など情報機器の管理・運営についてマルチメディア委員会が担当した。生徒一人一台のタブレット保有、生徒と保護者両方の Classi アカウント、生徒のマイクロソフトアカウントにより、生徒・教員間の学習、連絡の ICT 化、保護者と学校間の連絡のデジタル化が実現している。また様々なアプリによる学習の効率化や文書配布や欠席、遅刻連絡のデジタル化が実現している。成績・学籍管理のための校務システムの運用、テストのデジタル採点方式の試験導入等により、教職員の業務合理化も順次すすんでいる。今後も学校 IT 化を推進するとともに、生徒のデジタルスキル教育、情報モラル教育についても併せて推し進める必要がある。「ハンドブック」についてはデジタル化して学校ホームページ上にあげている。

(ス) 中学・高校の入学生数および全校生徒数（4/1 時点）、中学・高校卒業生数

2024 年度中学入学生 79 名

中学卒業生 76 名

高校入学生（併設中学からの進学者を除く）37名 高校卒業生 107名
中学・高校在籍生徒数 567名（中学生 232名 高校生 335名）

（４）入試・募集活動

（ア）入試説明会実施状況

4月 7日（日）新聞社主催 私立中学受験フェス（グランフロント大阪）
4月 7日（日）ECC ベストワン 西神南校説明会
4月18日（木）エデュケーショナルネットワーク 中学入試情報セミナー
4月20日（土）GS・GL 説明会（校内）
4月20日（土）新聞社主催 兵庫県私立中学校・高等学校入試報告会（神戸国際会館）
4月21日（日）芦研説明会（芦屋ラポルテホール）
5月12日（日）新聞社主催 進学相談会（フレンテ西宮）
5月15日（水）シンガライフ海外オンライン説明会（校内から）
5月18日（土）新聞社主催 兵庫県 私立中学・高校 入試報告会（あかし市民広場）
5月26日（日）関西教育機構 私学フェスタ（梅田サウスホール）
5月29日（水）進路支援研究会 総会（尼崎女性センター）
6月 9日（日）芦研模試会場、中学校説明会（校内）
6月15日（土）高校授業見学会（校内）
6月22日（土）中学授業見学会（校内）
7月13日（土）オープンスクール（校内）
7月15日（月祝）兵庫県女子中高一貫校合同説明会（神戸三宮東急 REI ホテル）
7月21日（日）新聞社主催 進学相談会 in 加古川（加古川プラザホテル）
7月28日（日）兵庫私学 小中高校説明会 西宮会場（ホテルヒューイット甲子園）
7月29日（月）海外子女教育振興財団 帰国生のための説明会（グランキューブ大阪）
8月 4日（日）出版社主催 私立小中高 進路相談会（須磨パティオ）
8月11日（日）兵庫私学 小中高校説明会 姫路会場（アクリエ姫路）
8月17日（土）18日（日）兵庫私学小中高校説明会神戸会場（神戸サンボーホール）
8月24日（土）オープンハイスクール（校内）
8月29日（木）海外オンライン説明会（校内から）
9月 7日（土）第1回中学校説明会（校内）
9月 7日（土）明光義塾 兵庫進学相談会（神戸国際展示場）
9月 8日（日）新聞社主催兵庫県私立中学・高等学校展（甲南大学 西宮キャンパス）
9月14日（土）第1回高校説明会（校内）
9月14日（土）第1回課題図書プレゼン入試説明会（校内）
9月15日（日）朋友ヴィッツ 私立中学・高校入試合同説明会（尼崎女性センター）
9月21日（土）新聞社主催 兵庫県私立中高 進学相談会（神戸国際会館）
9月25日（水）塾対象説明会（校内）
9月29日（日）出版社主催 学校進路相談会（イオンモール神戸北）
10月 2日（水）神戸市私立高校入試合同説明会（神戸市総合教育センター）
10月 6日（日）新聞社主催 進学相談会（西宮フレンテ）
10月13日（日）芦研模試会場、第2回 中学校説明会（校内）

10月14日（月祝）明石説明会（ウィズ明石）
 10月20日（日）宝塚説明会（宝塚ソリオホール）
 10月20日（日）出版社主催 学校進路相談会（あかし市民広場）
 10月26日（土）第3回中学校説明会（校内）
 10月27日（日）阪神西宮説明会（西宮市民会館）
 10月27日（日）私立高等学校 合同個別相談会（伊丹スワンホール）
 11月 2日（土）第2回高校説明会（校内）
 11月 3日（日）西神南説明会（西神南セリオホール）
 11月10日（日）プレテスト（校内）
 11月17日（日）有基塾 個別相談会（芦屋市民センター）
 11月30日（土）プレテスト個別アドバイス会（校内）
 12月 1日（日）第3回高校説明会（校内）
 12月 7日（土）第4回高校説明会（校内）
 12月 7日（土）第2回課題図書プレゼン入試説明会（校内）
 12月 7日（土）第1回英語面接練習会（校内）
 12月14日（土）クリスマスの集い
 12月14日（土）第2回英語面接練習会（校内）
 12月14日（土）課題図書プレゼン練習会（校内）
 12月21日（土）個別相談会（校内）
 1月18日（土）自己推薦GS入試・A方式入試・英語入試・課題図書プレゼン入試
 1月19日（日）B方式入試
 1月25日（土）中学校 合格者登校日
 2月10日（月）高校入試
 2月22日（土）高校入学予定者登校日（専願受験）
 3月24日（月）高校入学予定者登校日（併願受験）

（イ）2025年度 中学入試結果

	募集人員		志願者	受験者	合格者	入学者**
自己推薦GS入試		*GS約30	9	9	9	GS9
A方式入試	DS 約100		43	41	38	DS36
英語入試		*GS 約30	DS10 GS9	DS9 GS9	DS8 GS8	DS6 GS6
課題図書 プレゼン入試			12	12	11	DS11
B方式入試	DS約20		国語33 算数38	国語15 算数22	国語15 算数22	DS2
合計	約150		154	117	111	DS45 GS15

*GS 募集人員は、自己推薦GS入試、英語入試を合わせて約30名

**入学予定者は、各入試方式での入学者数を記載しているため、重複を含む。
このため、各入試方式の入学予定者数を合計しても合計の人数にはなりません。

(ウ) 2025年度 高校入試結果

入試方式	コース	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
専願	LS	約 50	17	17	17	17
	GL		3	3	3	3
	AA		17	17	17	17
併願	LS		11	11	11	3
	GL		5	5	5	0
合計			53	53	53	40

*LS 専願 9 名特進希望 8 名合格、 LS 併願 5 名特進希望 5 名合格

(5) 高校の進路結果

(ア) 進路状況全般 (過去 3 カ年推移)

	2025 年度入試	2024 年度入試	2023 年度入試
神戸松蔭女子学院大学 (特薦)	26	17	22
外部大学	74	70	71
外部短大	1	2	0
専門学校・留学	3	4	4
その他	3	4	4
卒業生数	107	97	101

*松蔭特薦専願は 26 名であった。多くの生徒が内部進学を積極的に選択した。また、併願合格者は 9 名で、併願からの進学者は 2 名となった。(前年度は合格 6 名、進学 1 名)

(イ) 2025 年度入試での外部大学進学者数一覧

前年度と変わり一般入試に挑戦する生徒が増加した。その影響もあり難関私大ではやや難化した。しかし中堅以下の大学位についてはさらに易化する傾向にある。公募推薦や一般選抜では大阪公立大学、同志社大学、関西大学、甲南大学、京都産業大学、龍谷大学などさまざまな大学に合格者を出せたことは一定の成果であると考えられる。

学校	人数
神戸松蔭大学	26
神戸女学院大学	8
甲南女子大学	7
甲南大学	7
立教大学	6

学校	人数
京都精華大学	1
神戸常盤大学	1
神戸芸術工科大学	1
神戸学院大学	1
園田学園大学	1

関西大学	5
関西学院大学	5
京都芸術大学	4
関西外国語大学	3
神戸女子大学	3
大阪芸術大学	2
関西国際大学	2
同志社女子大学	2
同志社大学	2
立命館大学	2
大阪公立大学	1
大手前大学	1
京都光華女子大学	1

奈良大学	1
姫路大学	1
兵庫医科大学	1
フェリス女学院大学	1
佛教大学	1
武蔵野美術大学	1
大和大学	1
流通科学大学	1
大阪成蹊短期大学	1
辻調理師専門学校	1
行岡医学技術専門学校	1
留学	1

就職 1 その他 2

(6) 施設・設備関係

- ・南館プール濾過装置の更新
- ・校舎消防設備等の不良箇所改修工事

(7) 事業計画の進捗・達成状況

2024 年度事業計画および中期計画（学校経営ビジョン）として、教学マネジメントでは中学・高校教育課程におけるストリーム・コース制の適切な取り組み、進路・進学指導の充実、高大連携の推進をあげた。経営・財務マネジメントでは、生徒募集対策の充実および適切な人材配置と教員採用・育成、財務構造の変革を掲げた。

2020 年度以来のストリーム・コース制は 2025 年度に 6 学年で完成するが、国語、英語、ICT、探究の 4 つの柱のそれぞれの分野ですでに一定の到達点を確認している。例えば英語力到達度では、ストリーム・コース制導入前の 2019 年度の英検準 1 級以上到達者 3 名であったが、2024 年度末時点で CEFR C1（英検 1 級レベル）2 名、CEFR C2（英検準 1 級レベル）11 名となった。また高校探究授業「言語探究」の各学年の試行的取り組みにより、今後の高校 3 年間を見通した探究カリキュラム策定の目処が立った。私学としての特色教育は順調に展開できており、次のステップとして「市場のニーズ」（男子児童・生徒の志願者の存在）に基づき、2026 年度からの一部コース共学化へと進める。

一方で入学者数を確保して定員充足を実現し、教学と財務のバランスを適正化させるという点については、在籍生徒数の前年度比 15 名増加という実状からは更なる改善が必要である。2024 年度生徒募集活動の結果としての 2025 年度入学生数（中学 60 名高校 41 名）は、前年度 2024 年度入学生数（中学 79 名、高校 46 名）から 1 割強の減少となった。特に中学 DS 募集活動についての改善が喫緊の課題である。

教員採用については、教員志望者の減少が報じられるなか、年々採用は難しい状況に陥っている。指導力がある教員の確保が特色教育の質を担保し向上させる鍵となる。公立学校教員の「教職調整額」と時間外勤務の問題も含め、教員志望者が意欲を持って学校勤務を継続するに足る賃金保障が求められる。なおベテラン教員の経験と指導力に期待し、退職後の教

員再任用制度を拡充して契約最終年度となる年齢を引き上げた。「定年退職者の再雇用規定にもとづく教職員」については満 67 才になる年度まで、「非常勤講師」「嘱託教職員」については満 72 才に達する年度までに変更した。

以上

3. 大学

(1) 執行部関係

学 長	徳山 孝子
副 学 長	長谷川 誠
副 学 長	橘 ゆかり
学長補佐(学生担当)	土肥 伊都子
学長補佐(教務担当)	竹中 康之
学長補佐(入試担当)	長谷川 誠
学術情報センター長	鳥居 さくら
宗 教 主 事	木鎌 耕一郎
文 学 部 長	池谷 知子
人間科学部長	坂本 真佐哉
教育 学 部 長	松岡 靖
事 務 局 長	上野 智子

(2) 教授会開催状況

教授会は専任講師以上の専任教員で構成し、文学部、人間科学部、教育学部の3学部合同で開催している。原則第1木曜日の開催としているが、審議事項や学事日程に応じて別日程の開催とすることもあり、年間の開催日程を学内に周知している。2024年度は13回開催し、次の事項を審議した。

- ①学生の入学、卒業及び課程の修了
- ②学位の授与
- ③入学試験、編入学試験の合否判定
- ④科目等履修生の受入及び単位認定
- ⑤単位認定（留学・語学研修・単位互換事業）
- ⑥学則等規程改正

(3) 教学マネジメント会議

教学マネジメント会議は、教学に関わる中長期計画に基づき、学部・大学院全体の教育課程の編成・実施について審議している。2024年度は6回の会議を開催し、2025年度及び2026年度学部・学科、研究科課程のカリキュラム、教育方針、履修規程改正、学科共通プログラム、資格、2025年度遠隔指定授業について審議を行った。また、教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラムマップについての点検も行った。

(4) 教学関係委員会開催状況

学長が主宰する委員会として独立委員会を、教育行政部門が所管する委員会として専門委員会をおいている。2024年度の各委員会開催状況は次のとおり。

独立委員会	
学長室会議	32回
大学運営委員会	27回
教学マネジメント会議	6回

入試総務委員会	22 回
広報委員会	4 回
I R 室運営委員会	8 回
自己点検・評価運営委員会	2 回
国際交流委員会	8 回
個人情報保護委員会	0 回
専門委員会	
学生部委員会	9 回
人事委員会	18 回
教務委員会	11 回
図書館運営委員会	14 回
学術研究委員会	4 回
地域連携研究センター運営委員会	10 回
公開講座運営委員会	1 回
キリスト教センター委員会	1 回
F D ・ S D 委員会	7 回
ハラスメント防止対策委員会	11 回
環境対策委員会	0 回
ネットワーク委員会	0 回
研究倫理委員会	8 回
全学共通教育委員会	1 回
教職教育委員会	2 回

(5) 教学関係

(ア)教育課程（カリキュラム）

- ・ 2025 年度カリキュラム及び開講クラス数について、2026 年度カリキュラム（文科省への申請に必要なもの）について審議を行った。学科・センターより申請されたカリキュラム編成、受講者数の資料について、学修時間、学修実態、授業評価結果、学修成果、資格取得実績等の IR 情報に基づき検討を行ない、適切であることを確認した。
- ・ 全学共通科目の情報系列必修科目に「データサイエンス・AI リテラシーⅠ」及び「データサイエンス・AI リテラシーⅡ」（各 2 単位）新設し、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けるための申請準備をしている。
- ・ 学部・学科を越えた幅広い学びができる学科共通プログラムについて、教育ユニットとコースの新設、資格課程の見直しを行った。
- ・ 日本語日本文化学科及び教育学科の 2026 年度の学科名称変更に伴い、カリキュラムの改編について、科目の廃止及び新設を行った。

(イ)ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

- ・ 教学マネジメント会議において、教育目標／ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに照らし、各教育課程のカリキュラムが編成されていることを確認した。
- ・ ディプロマ・ポリシーと科目の位置づけ（カリキュラムマップ）、シラバスに記載している到達目標との対応関係について、各学科及びセンターで点検を行った。

(ウ) 教育への ICT の導入

BYOD (Bring Your Own Device) へ移行したため、「BYOD 対象科目」を増設した。

(エ) 卒業時アンケート

大学 4 年間の教育課程を通して、学生の学修成果、大学教育の教育成果を測るために、卒業生に対して「卒業時アンケート」を実施した。

(オ) 卒業者数

2024 年（令和 6 年）9 月 12 日に、9 月卒業の認定会議を開催し、文学部 3 名（英語学科 3 名）と人間科学部 5 名（心理学科 2 名、食物栄養学科 1 名、ファッション・ハウジングデザイン学科 2 名）の計 8 名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。

2025（令和 7）年 2 月 28 日に卒業認定会議を開催し、文学部 2 学科 106 名、人間科学部 4 学科 227 名、教育学部 1 学科 54 名の計 387 名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。

(カ) 標準修業年限で卒業した学生の割合等

2021 年度入学生の修業年限(4 年)での卒業者数、卒業率、留年者数、中途退学者数等は次表のとおりである。

学部	入学者数 (2021 年)	修業年限内 卒業者数	卒業率	留年 者数	留年率	退学者数	退学率
文 学 部	122 人	98 人	80.3%	12 人	9.8%	12 人	9.8%
人間科学部	264 人	217 人	82.2%	21 人	8.0%	27 人	10.2%
教育学部	55 人	51 人	92.7%	2 人	3.6%	2 人	3.6%
大 学 計	441 人	366 人	83.0%	35 人	7.9%	41 人	9.3%

(6) 大学院教育

教育の充実に努め、教育研究の進展と人材育成の進展を目指し、研究倫理教育と研究不正防止に取り組んだ。8 月 5 日～10 月 31 日に研究倫理講習会を動画配信により開催し、本学の研究倫理審査の意図を指導教員及び大学院生に伝えた。

大学院の FD について、FD 委員会から大学院委員会の関連部会として、大学院 FD 部会を 3 回開催し、授業アンケート及び自己点検評価などを実施した。

大学院委員会は、学長、研究科長、副学長、学長補佐(学生担当)、学長補佐(教務担当)、学長補佐(入試担当)および大学院科目担当の専任教員で構成し、定例として月 1 回開催としている。2024 年度は 10 回開催し、次の事項を審議した。

- ①2025 年度教育課程に関する事項
- ②2024 年度修了認定、学位審査に関する事項
- ③大学院入試に関する事項
- ④予算の編成等に関する事項
- ⑤大学院 FD 活動に関する事項
- ⑥学則等規程改正

2025（令和 7）年 2 月 28 日に学位授与判定の会議を開催し、文学研究科博士課程言語科学専攻 1 名、修士課程国語国文学専攻 1 名、心理学専攻臨床心理学コース 9 名の最終試験を合格とし、博士（言語学）1 名、修士（国語国文学）1 名、修士（心理学）9 名の学位授与を承認した。

(7) 学生生活関係

(ア) 課外活動

クラブ・同好会一覧

【運動部 (6)】

ソフトテニス部、テニス部、卓球部、なぎなた部、アーチェリー部、剣道部

【文化部 (7)】

茶道部、書道部、箏曲部、美術・漫画研究会、文藝部、演劇部、放送部

【同好会 (1)】

軽音同好会

2024 年度におけるクラブ活動の主な成績は次のとおりである。

【ソフトテニス部】

関西学生ソフトテニスシングルス選手権大会	シングルス	優勝
		準優勝
		3 位
		ベスト 8
		ベスト 16
関西学生ソフトテニス春季リーグ戦	団体 (1 部)	準優勝
近畿ソフトテニス選手権大会	ダブルス	準優勝
		ベスト 8
ソフトテニス全日本大学王座決定戦	団体	ベスト 4
西日本ソフトテニス選手権大会	ダブルス	ベスト 4
		ベスト 8
西日本学生ソフトテニス選手権大会	団体	優勝
	ダブルス	3 位
		ベスト 8
		ベスト 16
		ベスト 32
	シングルス	優勝
		準優勝
		3 位
		ベスト 16
文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会	団体	ベスト 8
三笠宮賜杯全日本学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス	ベスト 8
		ベスト 16
		ベスト 32
全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会	シングルス	優勝
関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦	団体	優勝
天皇賜杯・皇后賜杯全日本選手権大会	ダブルス	ベスト 8
		ベスト 32
関西学生選抜インドアソフトテニス選手権大会	ダブルス	準優勝
		3 位

関西学生ソフトテニス新人大会	ダブルス	優勝
		ベスト 16
総理大臣杯全日本学生選抜ソフトテニスインドア選手権大会	ダブルス	準優勝
		3 位
兵庫県シングルス選手権大会	シングルス	3 位

【テニス部】

関西学生チャレンジテニストーナメント	シングルス	ベスト 16
--------------------	-------	--------

【なぎなた部】

関西学生なぎなた選手権大会	段外演技	優勝
	有段演技	優勝
	有段演技	準優勝
	団体	優勝
	段外個人	優勝
	段外個人	準優勝
	有段個人	優勝
全日本学生なぎなた選手権大会	団体	3 位
関西学生なぎなた新人戦大会	リズムなぎなた	優良賞(2 位)
	個人二部	優勝
	個人二部	準優勝
	個人一部	準優勝
西日本学生なぎなた選手権大会	団体	優勝
	有段個人	優勝
	有段個人	3 位

【卓球部】

関西学生新人大会	個人	2 位
	団体	優勝
関西学生春季卓球リーグ	団体	優勝
関西学生卓球選手権大会	ダブルス	優勝
		3 位
	個人	優勝
		2 位
		3 位
		ベスト 8
関西学生秋季リーグ戦	団体	優勝
全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部・ダブルスの部	ダブルス	優勝
	シングルス	3 位
		ベスト 8
		ベスト 1 6
全日本学生選抜卓球選手権大会	シングルス	ベスト 8
		ベスト 16
オール西日本大学卓球選手権大会（個人の部）	シングルス	2 位

		3 位
宝塚会長杯オープン卓球大会	シングルス	3 位
天皇杯・皇后杯 2025 年全日本卓球選手権大会ダブルスの部	シングルス	ベスト 3 2
全農杯 2025 年 全日本卓球選手権大会（ダブルスの部）	ダブルス	ベスト 8
東海関西対抗学生卓球大会	シングルス	2 位

(イ) 学生生活

①学内奨学金について

2024 年度の学内奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数	奨学金名	人数
・夢・未来サポート特待生奨学金 50	4	・松蔭高校生特別推薦選考入学者奨学金	8
・夢・未来サポートチャレンジ 50	1	・姉妹等奨学金	10
・夢・未来サポート特待生奨学金 100	3	・松蔭ファミリー入学者奨学金	1
・夢・未来サポートチャレンジ 100	1	・社会人特別編入学生奨学金	4
・夢・未来サポート特待生奨学金 50 (2 年目継続)	3	・外国人留学生奨学金	1
・夢・未来サポートチャレンジ 50 (2 年目継続)	3	・大学院	3
・夢・未来サポート特待生奨学金 50 (3 年目継続)	5	・指定校特待生制度	98
・夢・未来サポートチャレンジ 50 (3 年目継続)	3	・高大連携協定校奨学金	5
・夢・未来サポート特待生奨学金 100 (3 年目継続)	1	・総合型選抜奨学金	28
・夢・未来サポート特待生奨学金 50 (4 年目継続)	3	・セメスター、中国語セメスター、韓国語セメスター留学奨学金	11
・夢・未来サポートチャレンジ 50 (4 年目継続)	1	・1 年留学奨学金	1
・推薦選考スポーツ優秀者奨学金	27		

②学外奨学金について

A. 学外貸与奨学金について

2024 年度の学外貸与奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

大学		大学院	
奨学金名	人数	奨学金名	人数
日本学生支援機構 第一種	196	日本学生支援機構 第一種	3
日本学生支援機構 第二種	255	日本学生支援機構 第二種	0
その他 (6 件)	6		

B. 学外給付奨学金について

2024 年度の学外給付奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数
日本学生支援機構 (修学支援新制度)	167
その他 (2 件)	3

(ウ) 大学祭 (松蔭祭)

今年度の松蔭祭テーマは「Viscaria (ビスカリア)」とした。Viscaria はナデシコ科の一年

草で「望みを達成する情熱」という花言葉をもつ。情熱という言葉通り、今後も神戸松蔭を盛り上げるという熱い想いを胸に2日間実施した。

〔内容〕

日程：2024年11月16日（土）、17日（日）

- ・模擬店：模擬店（学生7団体、教職員1団体、学外5団体）
- ・展示教室（学生14団体、教職員1団体、学外3団体）
- ・野外ステージ（学生広報スタッフ KSS ステージ、軽音同好会、ファンタスティックビンゴ、よしもとお笑いライブ等）
- ・ファッション・ハウジングデザイン学科によるファッションショー（11/16）
テーマ：シンデレラタイム
- ・タレントスペシャルトークショー（11/17）

（エ）ハラスメント対策

1999年にセクシャル・ハラスメント防止対策のためのガイドラインを定めたが、その後パワーハラスメント、アカデミックハラスメントなど幅広くハラスメント全般に対して相談体制や調査委員会などを整備し、学生が安心して教育を受けることができるように、また教職員が安心して業務に専念できるように制度を整えている。今年度も「ハラスメントをおこさないために」と題したパンフレットを学生および教職員に配布した。

（オ）学生支援室

学生支援室では、視覚障害、聴覚障害、知的障害、病弱・身体虚弱、発達障害、精神障害（高次脳障害を含む）を有する学生、さらに障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある学生の、修学や学生生活、不登校、就職などの相談、支援に繋ぐなどの対応をしている。学生支援室には、社会福祉士や精神保健福祉士の資格を持つ支援員が在室し、2024年度は102名（2023年度のべ128名）の障害や病気の学生への支援をした。

2024年度、本学は合理的配慮の提供の義務化など、国内の法制度改正に伴い、「障害学生の修学支援に関するガイドライン」の制定（2025年度4月1日施行）に取り組んだ。本ガイドラインは、これからの本学における合理的配慮や、障害学生支援に関する諸認識と支援の質を一層深めるための基盤となる。さらに、障害学生やその家族の意見や、教職員の意見も本学の障害学生支援の取り組みに、必要に応じて反映し、支援体制の更なる構築や強化に努めていく基盤ともなる。

2022年5月、学生の居場所の確保と学生支援の充実を図る目的で開設された「学生支援サロン」は、学生の居場所・交流・相談などの拠点として、継続的に運営をし、延べ831名（2023年度延べ687名）が利用している。学生支援サロンは年々学生に周知され、利用が高まっている。

（カ）学生相談室

学生相談室には、公認心理師および臨床心理士の資格をもつカウンセラーが常駐し、学生の相談に応じている。また学生だけではなく、学生の家族や教職員からの、学生についての相談にも対応している。その他、新入生を対象とした精神的健康調査（UPI）を実施し、その結果からハイリスクと考えられる学生に対しては、手紙と面接にてフォローアップを行なっている。また、広報活動の一つとしてニューズレターを発行している。

2024年度学生相談室利用実績は以下の通りである。

相談件数（対面面接・電話面接）

2024 年度ののべ相談件数は 719 件、相談者実人数 78 名（学生 70 名、卒業生 6 名、教員 0 名、学生の家族 2 名）。2023 年度は、のべ 987 件、相談者実人数 123 名であり、相談件数、利用者実人数ともに減少した。理由としては、電話相談、UPI を例年通り入学直後に実施し、来室を促す機会は得られたが、学生数の減少傾向にあるためと考えられる。

学生相談室実施のグループワーク

コロナ禍以前には、学生相談室では下記の 3 種類のグループワークを実施していたが、コロナ禍以降の 2020 年度ならびに 2021 年度はいずれも休止としていた。2022 年度後期より「ハロークラブ」を再開し、2023 年度からは「ハロークラブ」と共に「ほっこりカフェ」も再開、2024 年度も実施した。

- ・ハロークラブ（毎月 1 回昼休みに、ものづくり活動等を通じて参加者間の交流をはかる）：2024 年度の参加者は延べ 16 名であった（5 月 3 名、6 月 3 名、7 月 3 名、10 月 1 名、12 月 2 名、1 月 4 名）。5 月に「お花キーホルダー作り」、6 月に「ワッペンネームタグ作り」、7 月に「アロマスプレー作り」、10 月に「アイロンビーズでハロウィンオーナメント作り」、12 月に「クリスマスカード作り」、1 月に「ワッペンネームタグ&トレカケース作り」を実施した。尚、2023 年度の参加者は延べ 23 名であった（6 月 6 名、7 月 3 名、10 月 3 名、12 月 6 名、1 月 5 名）。
- ・ほっこりカフェ（年 2 回昼休みに開催。新入生・過年度・復学・編入学の学生を対象とし、茶話会を通じて参加者間の交流をはかる）：2024 年度の参加者は延べ 4 名であった（4 月 2 名、11 月 2 名）。4 月は 1 回生を対象に実施した。11 月は社会人編入学生を対象に実施した。尚、2023 年度の参加者は延べ 5 名であった（10 月 3 名、11 月 2 名）。
- ・ランチクラブ（毎月 2 回昼休みに、面談室を開放し、自由に昼食をとってもらう会）：2024 年度は 2023 年度に引き続き休止。

(キ) 保健室

2024 年度の対応者総数は延べ人数で 1127 人となった。

駆けつけ対応：12 件（救急搬送：4 件）

対応内容としては内科・外科的な応急手当、健康相談、メンタルヘルス関連の相談もあり、学生支援室、学生相談室と連携を取り対応した。

①健康診断：基本的な感染予防対策は継続し実施した。

実施日：3/25(月)、3/26(火)、4/6(土)

受診者数：総受診者数 1,228 名（未受診者 27 名：うち 7 人が休学者）

受診率：98%（新入生の受診率：100%）

※健康診断未受診の学生については、電話連絡・ポータルでのメッセージなどで継続的に健康診断受診の依頼を行った。また必要時各部門と連携をとりながら健康診断受診を促した。

②健康診断内科診察時全学生の健康チェック

自覚症状の多い学生・体重増減のある学生や有疾患の学生については後日保健室にて保健指導・各専門機関の案内を実施。

③入学前健康情報の確認

健康調査票にて有疾患・食物アレルギー・配慮希望・不安事項に記載のある学生の保証人へ電話連絡にて問診行い、情報提供や支援室と連携し配慮についての面談を実施。

2024 年度入学生入学前面談 9 名

④学外実習参加前健康チェック(1,712 名)

学生支援支室と連携を取り、各担当部署と健康情報の共有を行った。また必要な学生とは面談を行った。

⑤寮へ訪問し寮生の健康相談と健康管理指導 (25 名)

⑥学生支援室と連携 ・ 随時「配慮願い申請者」への面談・就学困難学生への支援

⑦体組成計を利用した健康指導 (教職員向け) : 9 月・3 月に実施 (合計 : 33 名)

⑨その他

- ・ 応急手当のしおりと緊急対応時のフローについて 11 年ぶりに更新を行った。

- ・ 保健だよりにて学生へ健康情報の提供を行った。

(子宮頸がんワクチンの啓発活動・季節性感染症について等)

- ・ 感染症の件について

健康診断時に麻疹・風疹の予防接種が行えていない学生へは予防接種の必要性について推奨を行う。

学校感染症届にて学内の感染症の流行状況の確認と統計管理を行う。感染症の流行状況によっては保健所へ報告となるが 2024 年度は報告件数 0 件となる。

(ク) 学生寮

2024 年度入寮者は新入生 7 名、留学生 4 名を受け入れた。全体の入寮者数は 31 名 となった。

6 月 22 日に、看護師による健康チェックと防災訓練を実施し避難経路の確認、水消火器を使った消火訓練を行った。

12 月には、寮生支援の一環として、教育後援会からクリスマスプレゼントとしてお菓子を配布した。

(ケ) キャンパスにおける安心・安全対策

通学バス、タクシーによる登校時の安全対策として、警備員による正門付近の交通整理作業を行っている。この他、学内巡回警備をはじめ各所に防犯カメラを設置し、学内の防犯体制を敷き学生の安全・安心に配慮した。

(コ) 教育後援会について

教育後援会は、学生・保証人（父母等）・大学の三者間の連携を深めることでより一層の学生生活の充実を図り、家庭と大学が一体となって学生の成長を支援していこうという主旨で設立され 16 年目となる。役員相互の交流を図りながら円滑な運営が行われるよう支援した。また、今年度は松蔭祭に模擬店を出店している。

実施した総会等主な行事は以下の通りである。

・ 総会	2024 年 6 月 1 日(土) 開催
・ 教育懇談会	2024 年 10 月 19 日(土) 開催
・ 大学執行部との懇談会	2025 年 2 月 15 日(土) 開催
・ 第 1 回 幹事会・役員会	2024 年 6 月 29 日(土) 開催
第 2 回 幹事会・役員会	2024 年 9 月 28 日(土) 開催
第 3 回 幹事会	2024 年 12 月 21 日(土) 開催
第 3 回 役員会	2025 年 2 月 15 日(土) 開催

(8) 国際交流関係

(ア) 語学研修・海外インターンシップについて（全学科全学年対象）

- ①夏期語学研修梨花女子大学校（韓国）：5名
- ②夏期語学研修（フランス）：現地の受入状況の問題により、実施せず。
- ③夏期海外インターンシップ（カナダ）：現地の受入状況の問題により、実施せず。
- ④春期語学研修アデレード大学（オーストラリア）：2名
- ⑤春期海外インターンシップ（台湾）：最少催行人数に達しなかったため、実施せず。
- ⑥春期海外インターンシップ（ハワイ）：最少催行人数に達しなかったため、実施せず。

(イ) セメスター留学について（英語学科2年生後期実施）

- ①アデレード大学（オーストラリア）：3名
- ②オークランド大学（ニュージーランド）：4名
- ③ダブリンシティ大学（アイルランド）：3名
- ④閩江学院（中国）：1名
- ⑤徳成女子大学校（韓国）：1名

(ウ) 学科別海外研修について

①日本語日本文化学科（海外日本語教育実習）

派遣先：ダルマ・プルサダ大学（インドネシア）8名

②海外日本語インターン

派遣先：ダルマ・プルサダ大学（インドネシア）2名

③教育学科（海外教育実習）

派遣先：アデレード大学（オーストラリア）15名

(エ) 海外日本語教育助手について

①アデレード大学（オーストラリア）：1名（英語学科2023年度卒業）

派遣期間：2024年4月～2024年12月

②北京外国語大学（中国）：1名（英語学科2023年度卒業）

派遣期間：2024年9月～2025年6月

③閩江学院（中国）：1名（英語学科2023年度卒業）

派遣期間 2023年9月～2024年6月

④ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学（ベトナム）：1名

（日本語日本文化学科2023年度卒業）

派遣期間：2024年9月～2025年6月

(オ) 受け入れ留学生

- ①私費留学生2名：私費留学生3名：教育学科3年生1名、英語学科3年生1名、都市生活学科3年生1名
- ②交換留学生4名：北京外国語大学（中国）1名、閩江学院（中国）2名、ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学（ベトナム）1名
- ③短期受入れプログラム14名：開南大学（台湾）4名、徳成女子大学校（韓国）4名、ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学（ベトナム）1名、ダルマ・プルサダ大学（インドネシア）1名、スアンスンナンター・ラチャバット大学（タイ）4名

(9) キャリア支援課

(ア) 学生の就職支援

2024 年度は就職支援行事を対面中心に実施し、一部オンラインで実施した。

【対面実施】

就職オリエンテーション、就職ガイダンス、各種講座（グループ面接講座・グループディスカッション講座・筆記試験対策講座・エアライン講座）、内定者懇談会、

Brush UP セミナー（自己 PR 作成、学チカ作成）、Uターン就職セミナー、キャリアカウンセリング

【オンライン実施】

グループ面接講座、学内企業説明会、キャリアカウンセリング

(イ) 就職状況（2025 年 3 月 31 日現在）

求職者数	就職者数	就職率
321	316	98.4%

(ウ) 主な就職先

大和ハウス工業(株)	(株)近鉄百貨店	京阪電鉄不動産(株)
(株)日本エスコン	(株)アーバンリサーチ	セキスイハイム不動産(株)
(株)ミライト・ワン	(株)アダストリア	積水ハウス不動産関西(株)
大塚食品(株)	(株)オンワード樫山	(株)長谷工コミュニティ
キッコーマン食品(株)	(株)かねまつ	ダイワロイネットマネジメント(株)
(株)山田養蜂場	(株)ジャヴァコーポレーション	(株)テェルウィンコーポレーション ウェスティンホテル大阪
(株)トンボ	(株)ビショップ	穴吹エンタープライズ(株)
(株)ワコール	(株)ファミリア	(株)LEOC
ユニ・チャームプロダクツ(株)	(株)マッシュススタイルラボ	ワタキューセイモア(株)
朝日電器(株)	(株)J R 東海リテイリング・プラス	(独) 国立病院機構
(株)NTTデータSBC	東洋ナッツ食品(株)	SBCメディカルグループ
Sky株式会社	(株)キャメル珈琲	TBCグループ(株)
(株)ロココ	(株)ニトリホールディングス	ワタベウェディング(株)
日本交通(株)	(株)東京インテリア家具	(株)パソナグループ
(株)ニチレイ・ロジスティクス関西	ピラス(株)	兵庫県／神戸市教育委員会
ANA大阪空港(株)	(株)アルビオン	大阪市／大阪府教育委員会
アジアナ航空(株)	ウエルシア薬局(株)	(福) 松蔭ミカエル福祉会
(株)Kスカイ	(株)愛媛銀行	(福) 翠福祉会
全日本空輸(株)	尼崎信用金庫	鳥取県庁
ナブコドア(株)	三井住友トラスト・ビジネスサービス(株)	和歌山市役所
渡辺パイプ(株)	日本生命保険相互会社	尼崎市
宮野医療器(株)	明治安田生命保険相互会社	生活協同組合コープこうべ

(エ) 課外講座等の民間企業との連携

今年度からキャリア教育センターが廃止され、授業運営は全学共通教育センターに業務移管された。授業以外では、民間企業と連携して、課外講座を含めて次のキャリア支援を行った。

- ・(株)ANA 総合研究所に業務委託し、客室乗務員やグラウンドスタッフをめざす学生の相談窓口として「エアライン相談室」を4～7月、10～3月に計10回開設し、延べ人数で44人が利用した。
- ・(株)イングの派遣講師による筆記試験対策講座を対面で実施し、「夏期PI対策講座(2日間)」59人、「玉手箱秋講座(1日)」18人、「冬期SPI対策講座(2日間)」42人が受講した。
- ・(株)ベネッセi-キャリア提供のアセスメントテスト「GPS-Academic」を実施し、1年生は186人中178人、3年生は337人中287人が受検した。「問題を解決する力」の現状を「思考力」「姿勢・態度」「経験」という3つの観点で測定することを目的とし、1年次と3年次で同じテストを受検することで、自身の成長を図ることが出来る内容となっている。受検後はZoomにて、(株)ベネッセi-キャリアの講師によるフォローアップガイダンスを実施した。
- ・(株)東京リーガルマインドに業務委託し、「資格サポートオフィス」を開設。2024年度の資格・検定対策講座の受講者延べ人数は19人であった。受講申し込みがあった「MOS-Excel2019」、「MOS-Word2019」を対面で実施し、「ファイナンシャル・プランニング検定3級」はオンラインで開講した。また、3年生対象「公務員試験対策講座」を3名が受講し、1・2年生対象「公務員対策基礎講座」は7名が受講した。

(10) 入試関係

(ア) 本学の入試制度

- ①学校推薦型選抜（指定校入試）
- ②松蔭高校生特別推薦選考
- ③高大連携協定校入学試験
- ④スポーツ優秀者推薦選考（Ⅰ期・Ⅱ期）
- ⑤総合型選抜AO方式
- ⑥総合型選抜公募制方式前期日程
- ⑦総合型選抜公募制方式後期日程
- ⑧総合型選抜小論文・面接方式
- ⑨社会人入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）
- ⑩社会人入学試験（千と勢会）
- ⑪帰国生入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）
- ⑫海外指定校特別推薦入学
- ⑬外国人留学生入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）
- ⑭外国人留学生特別入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）
- ⑮一般選抜前期A日程
- ⑯一般選抜前期B日程
- ⑰一般選抜後期日程

⑱大学入学共通テスト利用入試（前期日程・中期日程・後期日程）

上記の入試制度により募集を行った結果、入学定員 400 名に対して入学者 260 名、定員充足率 65.0%であった。すべての入学試験要項に、アドミッション・ポリシーを記載し、本学の学部・学科が求める入学生の資質を明確にした。

2025 年度入学者数

学部・学科・専修		入学定員	入学者数	充足率
文学部	グローバルコミュニケーション学科	50	28	56.0%
	日本語日本文化学科	60	45	75.0%
	学 部 計	110	73	66.4%
人間科学部	心理学科	70	44	40.0%
	人間科学科	100	59	59.0%
	ファッション・ハウジングデザイン学科	60	42	70.0%
	学 部 計	230	145	63.0%
教育学部	教育学科	60	42	70.0%
	学 部 計	60	42	70.0%
合 計		400	260	65.0%

（イ）広報関係

①出版物の作成

大学案内、入試概要（年内入試 PR）、クイックガイド、受験生向け広報誌「Plus S」（年 2 回発行）、Welcome 号、学部学科案内、入試問題集等の作成

②テレビ CM の製作、放映

2025 年度共学化の PR のために、テレビ CM を以下の通り実施した。

読売テレビ、朝日放送、山陽放送、岡山放送、西日本放送、瀬戸内海放送、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島

【掲出期間】2024 年 4 月 27 日(土)～5 月 6 日(月)（読売テレビのみ）

2025 年 2 月 15 日(土)～2 月 28 日(金)

③公式サイトの運用

公式ホームページの情報更新等メンテナンス

④受験生向けサイトの充実

アドミッション・ポリシーをはじめ大学や近隣情報など受験生の関心の高い情報を随時更新、LINE 配信、メール配信

⑤会場進学説明会

関西、北陸、中国・四国・沖縄などで開催される説明会は、43 回実施。

⑥高校内進学説明会

主に、兵庫、大阪をはじめ、関西地区高校内で開催される相談会・進学説明会は、206 回の実施となった。

松蔭高等学校内での学科毎の説明会では、松蔭高校出身在学生と学科教員が対面形式で実

施。

⑦オープンキャンパス等の実施

6月、7月、8月、11月、12月、3月に7回実施。ランチの提供、学内カフェを設置した。

9月、12月、2月には留学生対象オープンキャンパス、12月、2月には社会人対象のオープンキャンパスを実施した。

⑧媒体の作成、発送

オープンキャンパスの案内用 DM、チラシの作成及び発送

媒体紙の作成（新聞、雑誌、等）

業者企画の進学雑誌、Web 媒体の作成、編集、校正

⑨高校訪問専従者による高校訪問と専任職員による高校訪問

高校訪問専従者による兵庫県全域と大阪府の一部、岡山県、広島県、山口県と徳島県、香川県、愛媛県、鳥取県、島根県の一部、沖縄県；約のべ 716 校への定期的な高校訪問ならびに高校訪問資料の作成

⑩交通広告の掲出

駅・バス停の看板の作成及び意匠変更、車内ポスターの作成

⑪高校教員対象の説明会の実施

本学で開催。対面式と Zoom ウェビナー（オンライン）形式のハイブリッド開催。

⑫キャンパスグッズ作成（ムーミンとのコラボ）

⑬学生広報スタッフ研修会の実施

⑭その他

その他各種団体からの広告要望への対応

各種団体からの取材要望への対応

(ウ) アドミッション・ポリシー

学生募集については、本学の学部・学科のアドミッション・ポリシーに基づき策定した入学試験制度により選考し、入学者を決定している。特に、総合型選抜の入学試験においては、志望学科のアドミッション・ポリシーと大学での学びの目標に関する内容を中心に口頭試問を行っている。

(11) 施設・設備関係

①9号館 全館空調個別化更新工事を実施した。

②9号館 全館照明をLED照明器具に更新した。

③テニスコート照明をLED照明器具に更新した。

④5号館3階の女子トイレを男子トイレに改修した。

⑤7号館2階の女子トイレを男子トイレに改修した。

⑥10号館1階 東側女子トイレを男子シャワー室、更衣室に改修した。

⑦5号館 1、2階女子トイレの和式を洋式に改修した。

(12) 情報インフラ整備関係

①プリンタ 2台の新規導入を行った。

②キャリア支援課のシステムを Job Hunter からキャリタス UC に変更した。

③総務および経理系のシステム導入に向けた準備を始めた。

(13) キリスト教センター関係

(ア) スーンサービス：授業期間中の火曜日・水曜日・木曜日

・誕生日感謝礼拝 6 回

4 月 25 日、5 月 30 日、7 月 11 日、10 月 10 日、11 月 21 日、1 月 16 日

(イ) 特別礼拝

・入学感謝礼拝 4 月 3 日

・イースター礼拝 5 月 23 日

・教育後援会総会開会礼拝 6 月 1 日

・日本語日本文化研修留学生歓迎礼拝 7 月 4 日

・セメスター留学壮行礼拝 7 月 23 日

・平和の折り鶴奉献（広島平和礼拝 2024）8 月 5 日～ 6 日

・合同礼拝/夕の祈り（神戸松蔭・立教・桃山学院教育）9 月 11 日

・学院逝去者記念礼拝 10 月 31 日

・松蔭祭のためのお祈り 11 月 12 日

・ホームカミングデー開会礼拝 11 月 16 日

・クリスマス礼拝 12 月 6 日

・松蔭女子学院新年礼拝 1 月 6 日

・新年祝福礼拝 1 月 14 日

・阪神淡路大震災記念礼拝 1 月 15 日

・第 39 回管理栄養士国家試験を受験する学生のためのお祈り 2 月 19 日

(ウ) 式典

・入学式 4 月 1 日

・院長・学長就任宣誓式 6 月 13 日

・9 月学位記授与式 9 月 20 日

・名誉教授称号授与式 1 月 6 日

・学位記授与式 3 月 20 日

(エ) 募金活動

2024 年度 合計 ￥798,889

・クリスマス礼拝での会場献金および学内教職員献金 ￥77,253

・学生ボランティアカフェ年間売上額（全 3 回） ￥35,400

・阪神・淡路大震災復興 30 周年記念演奏会チケット売り上げ ￥658,586

・クリアファイル等販売 ￥27,650

(オ) 結婚式：2 組

(カ) 公開行事・イベント

・バッハ・コレギウム・ジャパン神戸松蔭チャペルコンサート 5 回

5 月 19 日、6 月 15 日、9 月 16 日、11 月 30 日、3 月 15 日

・阪神・淡路大震災復興 30 周年記念コンサート 1 月 11 日

・クリスマスツリー点灯式 11 月 28 日

(キ) 会場提供：2 回

- ・松蔭中高コーラス部定期演奏会 6 月 16 日
- ・松蔭中高バイオリン・アンサンブル同好会定期演奏会 12 月 21 日

(14) 図書館関係

(ア) 図書館

<所 蔵 数>2025 年 3 月末現在	(合計)	(和書)	(洋書)
蔵 書 冊 数 (備 品)	421,745 冊	312,656 冊	109,089 冊
雑 誌 種 類 数	3,094 種	2,265 種	829 種
A V 資 料	12,796 点		

<2024 (令和 6) 年度受入数>	(合計)	(和書)	(洋書)
図 書	1,675 冊	1,651 冊	24 冊
雑 誌	349 種	323 種	26 種
A V 資 料	4 点		
消 耗 図 書	124 冊		

<2024 (令和 6) 年度利用統計>	(合計)	(学生)	(教職員他)
入 館 者 数	9,975 人	8,023 人	1,952 人
図書貸出数(A V 資料含む)	8,605 点	5,623 点	2,982 点
BYOD ノートパソコン貸出台数	172 台	160 台	12 台
BYOD バッテリー等貸出台数	21 台	21 台	0 台

<2024 (令和 6) 年度遠隔サービス利用状況>	(対応数)
学外アクセス用データベース ID 発行	235 件

複写依頼	複写受付	図書借用	図書貸出	閲覧依頼	閲覧受付
50	226	10	17	0	3

開館日数 234 日

相互利用 (他大学との協力)

オリエンテーション・ガイダンス

- ・「新入生クラス別オリエンテーション」各学科・グループに分け、1 年生に合計 6 回、125 名に対して実施
- ・2 年生以上の学生対象に論文作成及び卒業研究のためのガイダンスを 8 回 49 名に対して実施

除籍本の有効活用

- ・「図書館古本市場」 3 回実施 再利用資料数：563 点

- ・公益財団法人 日本科学協会の「日中未来共創プロジェクト」を通じ中国の大学に 209 冊寄贈

その他

- ・テーマを決めて図書を展示
- ・テーマを決めてオススメ本紹介
- ・新着図書紹介
- ・授業の参考資料「シラバス図書リスト」「データベースリスト」「オンラインブックリスト」作成
- ・図書館 WEB サイト更新
- ・冊子資料の選書会を 2 回オンラインで開催 参加者数 7 名 選書冊数 68 冊
- ・図書館活用方法動画の作成
- ・メールおよび電話でのリファレンスサービス実施
- ・郵送による貸出サービス実施
- ・「読書ラリー」実施（目標：卒業までに 100 冊読もう）
- ・「図書館マナーアップキャンペーン」実施
- ・「図書館ブログ」実施
- ・図書館サポーター企画の本棚「モノクル」及び「ブックログ」を利用した「オンラインモノクル」実施
- ・「授業目的公衆送信」に関する手続き実施
- ・学術機関リポジトリ「KARASHI-DANE」のシステム更新および運用
- ・御影中学校「トライやる・ウィーク」活動受入

(イ) 学術研究委員会

- ・出版 機関誌 2 誌をオンラインで刊行（研究紀要 No.6、TALKS No.28）
- ・研修 「研究倫理研修」を 2024 年度着任教職員と大学院 1 年生を対象に「一般財団法人 公正研究推進協会」のオンライン教材を利用して実施し、専任教員 6 名※、大学院生 10 名、合計 16 名が修了
※新任教員 7 名中 1 名は 2023 年度に本学研究倫理研修を修了済であった。
- ・学術研究叢書管理 旧学術研究委員会発行松蔭学術研究叢書の処分

(15) 社会連携・社会貢献

社会連携・社会貢献に関する基本方針に沿った活動を下記のとおり実施した。

（※スペースの関係上、主な活動を記載）

- (ア) 自治体、企業、団体、教育機関、博物館等と連携することで、本学及びこれらの機関が有する資源を活用し、地域社会の活性化に貢献する。（社会貢献）

連携機関	実施状況
神戸市地域子育て支援事業（まつぼっくり）	子育て支援フリースペースの実施（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）
神戸市灘区総務部地域協働課	・灘区チャレンジ助成事業（神戸市地域子育て支援事業「まつぼっくり」、こどもアートまつり、KOBE タータンフェス

	タなど) ・「芸術・文化の薫るまち・灘」魅力発信事業補助金採択事業 (書道 文化 フェスタ、(KOBETART フェスタ開催) ・まや山ファミリーアドベンチャーへの協力
神戸市立ファッション美術館	ジョルジュ・バルビエや神戸松蔭タータンのグッズ販売、 FHD 学科卒業作品展示、震災復興支援企画展への協力など
神戸市立博物館	大学祭において 移動博物館「おきしお号」来学、博物館ボランティアによる本学内ワークショップ、博物館でのナイトファッションショー企画
灘区連合婦人会	民踊春まつりににおいて FHD 学科ファッションショー実施
こども本の森 神戸	ミニポートタワー展示およびワークショップ開催
KIITO	子ども向けイベント「変身ワークショップ」実施
KOBE とまり木	とまり木マーケットにおいて FHD 学科ファッションショー、服の交換会「マツクロ」実施
淡河町商工会 淡河町地域振興推進協議会	「ぶるっと淡河」における FHD 学科の竹細工（ミニポートタワー）の展示と取組の紹介

(イ) 実践的教育研究活動を通して、地域における教育・研究の進展を図るとともに、地域社会に貢献できる人材を育成する。(人材育成)

具体的な方策	実施内容
授業公開講座	43 講座開講し 12 講座 18 名受講
神戸松蔭公開講座	前期 1 回、後期 3 回 実施
生きがい活動ステーション	アート講座実施
神戸・連合婦人会	英語講座実施
出張講義	4 校でのべ 6 回実施

(ウ) 本学の教育研究活動の成果を地域社会及び産業界のニーズに結びつけることで、地域社会の活性化及び課題解決に貢献する。(産官学連携)

連携機関	実施状況
神戸市企画調整局	大学都市神戸産官学プラットフォームへの参画 (うち「神戸外国人高度専門人材育成 Project」 「企業、行政、大学、住民がともにつくる地域 防災」のプロジェクトチームとして参加)
株式会社大丸松坂屋百貨店 (大丸神戸店)	「こうべいち」ブース出展
株式会社阪急阪神百貨店 (宝塚阪急)	宝塚カレーグランプリ参加 (本学オリジナルカレーの開発)
JA 兵庫六甲農業協同組合 (伊川谷花卉青年部)	都市生活学科花田教授によるビオラプロジェクトとして、近隣施設へビオラ配付
神戸市中央卸売市場東部市場	東部市場フェスタへの出展

無印良品阪急西宮ガーデンズ店	縫わずに作れるリサイクルブックカバー制作のワークショップ開催
株式会社ユタックス	FHD 学科（教員・学生）による商品開発等の提案を実施
萩原珈琲株式会社	オリジナルブレンドコーヒーの開発
神姫バス	「キュエル姫路」ワークショップ・1日カフェ 出展
TOWER EXPO KOBE	展示、ワークショップ実施

（エ）教育委員会、教育機関、大学コンソーシアムひょうご神戸等との教育支援や連携教育、スポーツ活動支援等を通して、相互の教育活動の充実及び地域社会における教育環境の向上に取り組む。

（高大連携、地域の教育機関等との連携）

連携機関	実施状況
兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会	高校生書道コンクール開催（日本語日本文化学科）
高大連携協定校 25 校	高大連携協定締結、25 校でのべ 89 回の講義を実施
大学コンソーシアムひょうご神戸	・企画運営、高大連携、教育連携、FD・SD、学生交流、キャリア各事業委員会に参画 ・「企業課題解決プログラム」への参加
大阪市福島区卓球協会	協会創立 40 周年記念大会への卓球部ゲスト参加とエキジビションマッチの実施

（16）言語科学研究所

言語科学研究所の事業は次の活動からなっている。

- （ア）機関誌 Theoretical and Applied Linguistics (TALKS) の発行
- （イ）研修員・研修生の受け入れ
- （ウ）国内外の研究者による研究発表会・研究講演会（コロキウム）の開催
- （エ）ウェブサイトによる情報の発信

（ア）機関誌 Theoretical and Applied Linguistics (TALKS) の発行

紀要 Theoretical and Applied Linguistics (TALKS) No.28 を発行した。No.28 は 1 編の論文が掲載されている。アクセス解析によると、TALKS 掲載論文のうち 2024 年 4 月 7 日～2025 年 4 月 7 日で 500 ビューを超えるものは 5 編あり、また同期間でダウンロード数が 1000 を超えるものも 3 編あった（そのうち 1 編は 3000 ダウンロードを超える）。このように、本機関紙は言語学ならびに応用分野において学術的な資料としての機能を果たしているといえる。

（イ）研修員・研修生の受け入れ

2024 年度は客員研究所員 4 名を受け入れた。客員研究所員は紀要 TALKS に投稿のほか、学会発表など活発な研究活動を行っている。

（ウ）国内外の研究者による研究発表会・研究講演会（コロキウム）の開催

2024 年度は、9 月に学内で研究談話会を開催した。所員 2 名が発表し、活発な議論が展開

された。そして3月には郡司隆男本学名誉教授をお招きし、「言語科学研究所2024年度講演会」を開催した。対面・遠隔（Zoom）のハイブリッド方式で開催したところ、対面では大学院生や近隣の研究者など、遠隔でも研究者十数名の参加があり、盛会であった。また、所員たちの多くが科学研究費を獲得し、研究に取り組んでいる。

(エ)ウェブサイトによる情報発信

紀要 Theoretical and Applied Linguistics (TALKS)は2019年(No.22)以降冊子を廃止し、神戸松蔭女子学院大学学術機関リポジトリを介して全論文を閲覧できるようにしている。

(17) 外国語教育センター

2024年度外国語教育センターが実施した主な事業は次のとおり。

- ① 全新生への TOEIC Bridge IP TEST 実施（4月）、180名
- ② TOEIC Bridge IP TEST による英語科目レベル別クラス分けの実施（前期）
- ③ 事前登録、新生外国語科目変更等、履修登録関係全般の業務を行った。
- ④ 英語科目履修者（英語学科を除く）への TOEIC Bridge IP TEST 実施（1月）、180名
一年間を通して学生の英語力の向上を測定すること、また学習に対するモチベーションを維持・向上させることを目的としている。
- ⑤ 各言語毎に連絡網を作成し、密に連絡を取り合って教授法などの交流を行った。
- ⑥ 2025年度に向けてカリキュラムの見直しをした。
- ⑦ 全学希望者向け TOEIC IP オンラインテスト2回、ペーパーテスト1回を導入した。
 - a. オンラインテスト
年2回実施（6月19日～26日 11名、1月20日～27日 11名参加）
 - b. ペーパーテスト
年1回実施 11月12日 9名
- ⑧ 英語ネイティブ非常勤講師用ハンドブックを作成し配布した。
- ⑨ 外国語教育センター所員会議を実施した。
- ⑩ 年7回。5月9日、6月13日、7月11日、10月10日、11月21日、12月12日、2月6日
- ⑪ English Island 開室
延べ利用者数
 - a. 前期4月～7月 448名、
 - b. 後期9月～1月 544名
- ⑫ 外国語応援サロン開室
延べ利用者数
 - a. 前期4月～7月 436名（2%増加）
 - b. 後期9月～1月 544名（57%増加）
- ⑬ 学内向け Web サイトの管理運営を行った。

(18) 情報教育センター

情報教育センターが2024年度に実施した主な事業は次の通りである。

(ア) 情報教育・コンピュータ（Windows）教室関係

- ① 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）への申請に向けて2024年度入学生から「データサイエンス・AIリテラシーⅠ/Ⅱ」を開講した。

②IT 機器ヘルプデスクにおいて、BYOD が導入された新入生を中心に 2215 件の案件に対応した。なお、IT 機器ヘルプデスクの設置は 2024 年度を以て終了した。

(イ) 学内ネットワーク関係

基幹サーバとコアスイッチ間の接続を光ファイバー（10Gbps）化すると共に、基幹ネットワークの論理構成の更新を行った。

(19) 神戸松蔭こころのケア・センター

神戸松蔭こころのケア・センターは、地域に開かれた心理相談機関として、臨床心理学の教育・相談・研究の実践および地域貢献を目的として活動している。

(ア) 教育活動について

2024 年 3 月に本学大学院を修了した者 6 名のうち 5 名が、2024 年度の（公財）日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士」資格試験に合格した（合格率 83.3%、全国の合格率 66.1%）。

また、国家資格である第 8 回公認心理師試験（2025 年 3 月 2 日実施）は、2025 年 3 月に本学大学院を修了した受験資格取得者 8 名のうち 4 名が合格した（合格率 50%、全国の合格率 66.9%）。本学出身の受験者総数は 9 名で、全体の合格者は 5 名であった（合格率 55.6%）。

(イ) 心理相談活動について

2024 年度における新規の相談申し込みは 51 事例（昨年度 50 事例）であった。相談回数は合計 1,417 回（昨年度 1,223 回）であった。

(ウ) 研究活動について

研究報告誌「神戸松蔭こころのケア・センター 臨床心理学研究 第 19 号」を 2024 年 8 月に刊行した。2023 年度に行った「ブラッシュアップ研修会」での山口大学の安達圭一郎教授の講演の記録、センター相談スタッフおよび修了生による研究論文を 6 点掲載した。研究報告誌は、全国の公認心理師および臨床心理士養成指定大学院と学内外の関係者（コメンテーター、スーパーバイザー、本学教員など）に送付した。

また、修了生を対象に「ブラッシュアップ研修会」を、本学の元教員でもある、ももやま心理相談室の一丸藤太郎氏を講師に招いて 9 月 21 日（土）に開催した。研修会への参加者は 71 名であった。

(エ) 広報活動について

当センターを地域一般に認知し、利用していただけるように、無料相談会（春季 5 月 27 日～6 月 7 日、秋季 10 月 7 日～10 月 18 日）を行った。神戸市教育委員会に周知を依頼し、灘区内の幼稚園へチラシを配布し、マスメディアへチラシの掲載を依頼した。無料相談期間中の相談受付数は春季 5 件、秋季 7 件であった。

(20) 教職支援センター

(ア) 教職課程および保育士養成課程の認定状況

課程認定学科	資格・免許状種別
文学部 英語学科 ※2024 年度に取り下げ（2024 年度課程履修者あり）	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）

文学部 日本語日本文化学科	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（書道）
人間科学部 都市生活学科	中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭）
人間科学部 子ども発達学科 ※2019 年度に取り下げ（2024 年度課程履修者あり）	保育士 幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状
教育学部 教育学科 ※2024 年度に中学校・高等学校（英語）、特別支援（3 領域）取り下げ（2024 年度課程履修者あり）	保育士 幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語） 特別支援学校教諭一種免許状 （知的障害者・肢体不自由者・病弱者）
大学院文学研究科 国語国文学専攻	中学校教諭専修免許状（国語） 高等学校教諭専修免許状（国語）

（イ）課程履修（登録）者数（単位：人）

課程履修登録者： 631 名（5 月 1 日現在）

課程・教科	1 年 (124 生)	2 年 (123 生)	3 年 (122 生)	4 年 (121 生) 過年度生	科目等 履修生	計
保育士養成課程	20	23	59	45	0	147
教職課程(幼稚園)	20	23	59	44	0	146
教職課程(小学校)	4	13	14	11	0	42
教職課程(中英語)E	2	2	0	3	2	9
教職課程(高英語)E	2	2	0	3	2	9
教職課程(中国語)	5	13	4	7	0	29
教職課程(高国語)	5	13	4	7	0	29
教職課程(高書道)	4	9	3	4	0	20
教職課程(中家庭)	9	8	9	11	0	37
教職課程(高家庭)	9	8	9	11	0	37
教職課程(特別支援)	18	19	27	22	0	86
教職課程(中英語) T	0	6	8	6	0	20
教職課程(高英語) T	0	6	8	6	0	20
教職課程(専修国語)	0	0	0	0	0	0
計	98	145	204	180	4	631

（ウ）保育・教育実習に参加した学生数（単位：人）

	保育所	施設	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
実習生数	74	37	58	8	11	17	16	221

※ 中高一貫校については「中学校」に計上した

(エ) 保育士資格および教育職員免許状（一種・専修）の授与件数

	保育士	幼稚園	小学校	中学校		高等学校		特別支援学校	合 計
		一種	一種	専修	一種	専修	一種		
授与件数	44	44	8	0	23	0	27	16	162

(オ) 就職実績

就職者数	保育士		保育教諭		幼稚園教諭		小学校教諭		中学校教諭		
	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	
	公 1	公－	公 0	公－	公－	公－	公 4	公 3	公 6	公 0	
	私 11	私－	私 13	私－	私 5	私－	私－	私－	私－	私－	
	12		13		5		7		6		
就職者数	高等学校教諭		特支教諭		施設職員						
	正規		正規	その他	正規	その他					
	公 1		公－	公	公－	公－					
	私 0		私－	私－	私 2	私－					
1		0		2							

(カ) 教員採用試験対策講座の実施

教員採用試験対策講座 6 講座を次のとおり実施した。

講座名	実施日程	授業回数	内容	利用人数
教員採用試験対策講座(1) ※対象 4 年・3 年	4/8～7/25	28	面接、場面指導(教職・全科筆記テスト、小論文の個別相談・指導)	10 名
夏季直前対策講座 ※教採 1 次合格者	7/29～8/28	14	受験自治体の試験内容合わせた指導(模擬授業・場面指導、面接、全科筆記テスト)	10 名
教員採用試験対策講座(3) ※対象 3 年・2 年	9/26～1/30	30	面接、場面指導(全科筆記テスト、小論文の個別相談・指導、教員採用試験の情報提供)	12 名
春期集中対策講座(1) ※対象 1 年～3 年	2/3～2/7	10	全科筆記テスト(全科筆記テスト、小論文の個別相談・指導、教員採用試験の情報提供)	15 名
春期集中対策講座(2) ※対象 1 年～3 年	3/3～3/7	10	全科筆記テスト(全科筆記テスト、小論文の個別相談・指導、教員採用試験の情報提供)	15 名
音楽実技 (ピアノ)	4 月～2 月 (前・後期)	13	採用試験や小学校音楽科の授業で要求されるレベルの曲を弾ける実践力を目指す	25 名

(キ) 教職教育年報 ※2024 年度「教職支援センター年報」より名称変更

教職支援教育年報創刊号を 9 月 30 日に発行した。

(21) 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

(ア) 教育

2024 年度授業については、2023 年度と同様にマスク着用は、授業や行事ごとに必要性に応じて対応することとした。また、新型コロナウイルス感染症は、授業や課外活動における配慮もインフルエンザ等、他の学校感染症と同じ扱いとした。

大学中期計画（2023 年-2027 年）を掲げている教育分野の 4 項目について報告する。

1. 互いを認め協働する社会を作るコミュニケーション力の養成

三つの目標値を掲げた。「全学共通科目コミュニケーション系列科目の改編を作成し、2025年度より開講」については、開講科目が決まっているため、2024年度は開講準備をおこなった。二つ目は「2026年度までにコミュニケーション関連個別相談サロンの利用者数を倍増」については、文章作成応援サロンと授業との連携案の作成に至っていない。個別相談サロンの相談員にふさわしい人材の確保ができていないためである。最後の三つめは、国際交流の目標値「2025年度からセメスター留学可能な学科を拡大」については、海外留学が難しい食物栄養学科と教育学科以外の学科において認定留学という名称で実施し、規程の改正を行った。

2. 社会のデジタル化、データ利用の進展に対応できる力の養成

四つの目標値を掲げた。BYOD（PC必修化）を前提とした教育に必要であった free Wi-Fi、充電可能な自習スペース、相談態勢（IT 機器ヘルプデスク）といった対応は終えた。目標値「BYOD 対応科目を 2027 年度までに全学開講科目の 70%以上に」については、2024 年度は BYOD 対象学年が 1～3 年生まで広がったため、PC 使用を前提とした授業形式への移行が多く授業で可能になった。二つ目の目標値「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度リテラシーレベル認定を 2025 年度までに取得」については、2024 年度入学生より全学共通科目「情報リテラシー I・II」に代わって、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度リテラシーレベルで要求される教育内容を含む「データサイエンス・AI リテラシー I・II」を開講することを決定した。この科目を全学科の 1 年生必修科目とし、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度リテラシーレベル認定へ申請する条件が整った。残る目標値「Web デザインの知識と技術を用いた発信力を養成する科目を 2025 年度までに開設」と「Web デザインの知識と技術を利用した発信をサポートする体制を 2025 年度から運用」については、都市生活学科のデータ分析、社会調査科目、経済学、マーケティング論を 2025 年度から全学的に開放する方針を決定し、Web デザインの知識と技術を用いた発信力を養成する科目の設定とサポート体制については 2024 年度に準備した。

3. 『新しい社会』を提案できる力の養成

二つの目標値を掲げた。「授業数を 2027 年度までに 2022 年度に比して 15%削減」については、2025 年度に向けて全学共通科目の科目数の削減を行い、2021 年度カリキュラムに比して 2025 年度は 2 割減となる予定である。専門教育科目については、資格取得などの必要性から学科によって進捗度合いが異なるものの、科目数を削減しつつある。二つ目の目標値「ゼミ形式や PBL 型授業担当教員の評価方法を 2026 年度に策定」については、2024 年度中に評価方法を提案できるところまで至っていない。

4. 学修成果・教育成果の可視化

四つの目標値を掲げた。「再構築したアセスメントポリシーを 2025 年度より運用」については、IR 室においてアセスメントポリシーと学位授与の方針の関連性について検討するとともに、他大学のアセスメントポリシーの調査を行った。学位授与の方針との関連性を明確にしたアセスメントポリシーの公表と運用を 1 年前倒しで実施する準備ができた。「学修ポートフォリオを改善し、2024 年度より運用」と「ディプロマサプリメントを 2025 年度から発行」については、検討が進んでおらず準備が遅れている。四つ目の目標値「ディプロマ・ポリシーに沿った各学年の到達度を 2024 年度より公表」については、学科のディプロ

マ・ポリシーが学科専門科目を通じてどの程度修得されたかを示すレーダーチャートの作成を IR 室において行い、学内に公表した。

(イ) 学生生活

学生支援については、改正障害者差別解消法が 2024 年 4 月より施行され、合理的配慮が義務化された。本学は、学生支援室を中心に合理的配慮の実績を積み重ねるとともに、合理的配慮に関する FD 研修会を行ってきた。この仕組みや体制の維持に努めた。また、学生生活の利便性向上については、通学バスの利用率向上のため通学バスを無料化し、2025 年度から実施する。

大学中期計画（2023 年-2027 年）を掲げている学生生活の 2 項目について報告する。

1. 学生参加による魅力的なキャンパス作り

三つの目標値を掲げた。学生からの提案によるキャンパスの活性化を目指して「2024 年度から提案を募集、2025 年度からキャンパス作りを開始」という目標値を掲げ、活動場所の一つとして 4 号館 1 階の学生ホールの全面改修を行い、学生が運営できるカフェの設備を設置した。キリスト教センターのボランティアグループにより使用されているが、2024 年度は都市生活学科などが利用した。

二つ目の目標値「2023 年度より松蔭 CP の審査体制を見直し、2025 年度にはコロナ前を越える採択件数に」については、審査体制や応募要件の検討にとどまっており、2024 年度からの活動再開ができなかった。2025 年度からの共学化を踏まえて、本プログラムのより望ましいあり方を検討した。「学生ボランティア講座、ピアサポーター講座を 2023 年度から開設」についても、学生課内の体制が整わず開設が遅れているため、2024 年度からの開始まで至っていない。

2. 共学化に対応したクラブ・サークルの新設

2025 年度からの共学化に向けて、中期計画に「共学化に対応したクラブ・サークルの新設」の項目を追加した。強化クラブにおける男子の受け入れあるいは男子部の設置を、既存の強化クラブと調整しながら検討し、その結果に応じて、サークル棟の改修などを実施した。強化クラブ以外のクラブ及びサークル活動における男子学生受け入れについては、クラブ・サークル自体での決定になるが、男子学生受け入れを行いやすいように支援していく準備を整えた。2024 年度は、強化クラブとして新たにゴルフ部、剣道部を決定した。

(ウ) 研究

2024 年度から組織としての図書館を学術情報センターに改め、学術情報センターが図書館の運営と研究の公表・研究支援を行うこととし、研究支援室は学術情報センター傘下に入る形に移行した。研究に関する大学の方針の策定や研究倫理審査は、これまで通り副学長（教育・研究担当）が所管した。

中期計画において「研究の適正な実施と活性化」の項目を設けた。

1. 2025 年度から学部学生に対する新たな倫理教育を実施

学部生の研究倫理観の涵養については、2024 年度より各学科の 1 年生必修科目である基礎演習科目において研究倫理教育をシラバス記載した上で実施した。学部生への基礎的な研究倫理教育の内容については、学術研究委員会、学術情報センター、研究倫理委員会が連携して点検していくこととなった。

2. 2025 年度に種目別採択率と同等の採択率

科研費採択率の向上については、科研費に関する情報の提供や申請書類作成のための対策

講座の実施等により本学からの応募は増加しつつあり、2024 年度も同様の応募と採択率の向上を目指した。

(エ) 社会連携

中期計画において「地域性に立脚した社会貢献」の項目を設け、四つの目標値を掲げた。

1. 社会連携活動をサポートする体制を 2024 年度より運用

2024 年度より地域連携研究センターを設置した。地域連携研究センターの事務は共同教育支援課とするが、学科を越えた協力体制で地域連携を行っていくことを決定した。2024 年度は地域連携研究センターが中心となって、灘区への地域貢献、私立大学等改革総合支援事業に採択されている「ひょうご産官学連携協議会」の取り組みなどを活発に行った。また、本学独自のデザインである神戸松蔭タータンについては、2022 年度から学生たちによる商品開発と販売が始まっているが、このデザインに対する社会への認知度を高めるとともに、商品開発と販売をさらに進めていく。また本学は、Tove Jansson を著作者とする「ムーミン」シリーズに含まれる、ムーミン一家とそれに関連するキャラクター及びその他の著作物を広告等で使用できる契約を結んだ。ムーミンキャラクターを地域貢献に活かすことも進めている。

2. チャペル奉仕グループの活動を 2024 年度にコロナ前の水準へ

コロナ禍で中断していたチャペル奉仕グループのボランティアカフェ・リースヒェンなど学内活動だけでなく、2024 年度は学外での活動も再開した。

3. 高大連携校への教員派遣を 2023 年度から本格化

各学科ともに高大連携協定を結んだ高校の授業への教員派遣を行い、高大連携が本格化している。高校において、大学の専門性に応じたコース教育や探究学習が活発になる中、大学教員の専門性へのニーズが高まっている。2024 年度もそれぞれの学科が、専門性を活かした授業、探究学習へのアドバイスをを行った。

4. 「大学都市神戸 産官学プラットフォーム」による産官学連携の活性化

本学は神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト、大学・企業・行政の交流促進プロジェクトといったプロジェクトを神戸市や他大学、企業と連携して行っている。また、産官学連携交流拠点（KOBECOCREATIONCENTER）を利用について学内に周知し、本学主催のイベントなどを企画している。

(オ) 大学運営

大学運営分野には六つの項目を設けた。

1. 教学機構の改編

2024 年 4 月に就任した新学長・副学長は、教学と事務局の一体的運営を掲げて、2024 年度から教学機構を大きく改編することを発表した。これにより、あらたに「教学機構の改編」の項目を中期計画に追加した。学長室会議を正式な会議体として設置するとともに、教学委員会を学長室会議の方針の下に教学の運営を行う大学運営委員会に改め、教学マネジメント会議の役割を教育・研究に関する検証・評価を踏まえて方針を検証し、改善策の提案を行うこととした。この他にも、部局の新設や統合などを決定した。2024 年度は新しい教学機構のもとで大学運営を行った。

2. 内部質保証システムの強化

大学基準協会による大学評価結果を参考に本学の内部質保証を改善していくこととしていたが、問題点であった教学委員会と教学マネジメント会議の連携や役割分担については、上

述した教学機構の改編において、教学マネジメント会議が内部質保証の役割を担うこととした。2024年度は、この新たな教学機構に沿った内部質保証システムを構築した。

3. 持続可能なキャンパスへの整備

環境に配慮した持続可能なキャンパスへの整備を進める。既に進行中である建物の個別空調化については、図書館棟である9号館の改修に着手した。蛍光灯のLEDへの転換をさらに進めるとともに、建物を維持するための保守・改修を行った。「2027年度までに個別空調及び蛍光灯のLEDへの転換を完成」については、計画通りに進行している。「廃棄物分別新方針を2024年度までに策定」については、策定が遅れており、新方針を2024年度中に決定することができなかった。

4. 共学化に対応した施設・設備改修

2025年度から共学化するため、中期計画に「共学化に対応した施設・設備改修」の項目を追加した。2025年度までに男子学生に対応した施設・設備を設置し、入学状況に応じて充実させることとした。2024年度中に、一部トイレの男子トイレへの改修、男子更衣室設置などに伴う体育館改修をおこなった。

5. 新学科設置による募集力強化と入学定員管理

2023年に発表した中期計画表では「新学科設置」の項を設けて2025年度の新学科設置を目指していたが、検討の結果、2025年度は英語学科をグローバルコミュニケーション学科に、都市生活学科を人間科学科へと名称変更し、2025年度の新学科設置は行わないこととなった。代わって、2026年度に向けた学部・学科再編を検討することとなったため、中期計画の「新学科設置」の項目に代わって「学部・学科再編」の項目を置くこととした。共学化を踏まえた学部・学科再編を目標として2023年度に検討プロジェクトを設置した。2024年度も検討を継続して再編の具体案を作成した。2024年度は、日本語日本学科を人文社会学科に、教育学科を教育発達学科へと名称変更した。2024年12月17日に、本学と立教大学社会学部との連携・協力に関する協定を締結した。具体的にはメディア・社会学分野における学術研究や教育活動及び人材育成に関する活動について連携していく。

既存学科・研究科の定員管理については、2025年度食物栄養学科の学生募集停止を決定した。入学定員は、2024年度の460名から2025年度には400名へと変更し、定員充足率の向上を図る。定員充足率の向上には、学生募集の強化が必要である。2021年度募集以降、年内に進学先を決定する学生の比率が年々高まっており、総合型選抜、学校推薦型選抜の重要性が増している。2025年度入試では、総合型選抜を3期に分けて行うなど強化する。また、共学化だけでなく、外国人留学生特別入試の回数を増やして、入学生の多様性を確保する。広報面においては、共学化と大学名称変更及びその意義を広くアピールした。

6. 事務組織のデジタル化推進と事務システムのパッケージ化

学内事務のデジタル化推進については、情報セキュリティ対策を徹底し、教職員に対する研修の実施などによりITリテラシーをさらに向上させて、学内事務のデジタル化を進める。職員使用PCをデスクトップからノートへ順次移行し、会議資料のデジタル化を2024年度から開始した。また、学内申請書類についても順次デジタル化し、ペーパーレス化を進める。

学籍管理や教務事務などに総合パッケージシステムの使用を目指す点については、2024年度は学務及び総務、経理業務に関するパッケージソフトの比較を行い、候補を絞り込んだ。新システムの決定及び導入準備を2024年度中に行った。

7. 教職員の勤務評価改善

大学をめぐる状況が大きく変化する中、専任教員に求められる業務が従来よりも拡大している。教育、研究、社会貢献、学内業務など専任教員に必要な役割をバランスよく評価する仕組みを作成するとともに教員の労務管理を確立した。2023年度は、第3種契約専任教員の出校日管理など労務管理の改善を行った。教員全体の労務管理については、2024年度に管理体制を整えた。2025年度は、教員の労務管理を進める。

教員の勤務評価の改善、職員の勤務評価の改善については、根本的な議論は進んでいない。引き続き検討を進める。

8. 少子化進行に対応した財務計画

新しい収容定員に応じた財務計画を策定については、新規教職員の採用の抑制など支出を減らす努力を行っており、2024年度の支出減は見込まれる。しかし、定員充足率が改善せず、当年度収支の赤字解消には時間がかかると考えられる。さらなる支出抑制、校納金の見直しなどを検討する。また、補助金の獲得については私立大学等改革総合支援事業タイプ1、タイプ3ともに採択を目指す。令和6年度は、タイプ3は採択された。タイプ1の採択は容易ではないが、継続的に採択に向けた努力をすることで、採択の可能性を徐々に高めていく。タイプ3については採択の継続を目指す。

以上

Ⅲ 財務の状況

1. 決算の概要

(1)貸借対照表関係

(ア)貸借対照表の状況と経年比較

単位：千円

科 目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
有形固定資産	16,332,669	16,401,807	15,073,431	14,969,427	14,738,782
特定資産	5,775,476	5,682,987	6,680,349	6,488,729	6,147,777
その他固定資産	88,203	89,205	75,919	70,268	97,793
固定資産計	22,196,348	22,173,999	21,829,700	21,528,423	20,984,353
現金預金	3,424,498	3,237,123	3,051,413	2,334,739	1,781,494
その他流動資産	61,132	39,155	42,941	50,670	37,961
流動資産計	3,485,630	3,276,278	3,094,354	2,385,409	1,819,455
資産の部合計	25,681,978	25,450,277	24,924,054	23,913,832	22,803,808
長期借入金	204,930	182,160	159,390	136,620	113,850
退職給与引当金	676,392	688,944	685,505	695,712	725,332
その他固定負債	10,341	10,341	10,341	10,341	10,341
固定負債計	891,663	881,445	855,236	842,673	849,523
短期借入金	22,770	22,770	22,770	22,770	22,770
未払金	6,489	8,081	53,757	11,430	10,871
前受金	1,012,307	898,073	707,760	554,563	502,680
その他流動負債	218,950	230,670	267,632	226,918	232,293
流動負債計	1,260,516	1,159,594	1,051,920	815,681	768,613
負債の部合計	2,152,179	2,041,039	1,907,155	1,658,354	1,618,136
1号基本金	25,362,784	25,849,752	24,358,459	24,610,084	24,780,410
2号基本金	0	0	0	0	0
3号基本金	311,214	311,214	311,214	311,214	311,214
4号基本金	284,000	284,000	284,000	284,000	284,000
基本金計	25,957,998	26,444,967	24,953,673	25,205,299	25,375,624
繰越収支差額	△ 2,428,200	△ 3,035,729	△ 1,936,775	△ 2,949,821	△ 4,189,952
純資産の部合計	23,529,798	23,409,238	23,016,898	22,255,477	21,185,672
負債及び純資産の部合計	25,681,978	25,450,277	24,924,054	23,913,832	22,803,808

(イ)財務比率の経年比較

単位：千円

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
基本金要組入額	19,901	464,199	△ 1,491,294	251,626	188,866
基本金組入額	19,901	486,969	△ 1,491,294	251,358	188,866
運用資産	9,199,974	8,920,110	9,731,762	8,823,467	7,929,272
外部負債	234,189	213,011	235,917	170,820	147,491
減価償却累計額	9,173,585	9,374,915	9,773,254	9,592,766	9,928,117
要積立額	10,161,191	10,375,073	10,769,973	10,599,692	10,964,663

(2)資金収支計算書関係

(ア)資金収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

科 目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学生生徒等納付金収入	3,049,960	2,942,036	2,700,256	2,195,171	1,748,995
手数料収入	35,562	30,553	24,307	18,176	20,392
寄付金収入	7,982	18,661	23,674	13,744	65,229
補助金収入	682,629	696,585	673,780	554,684	449,454
資産売却収入	1,178,627	0	1,280,605	175,576	0
付随事業収入	145	242	155	150	150
受取利息・配当金収入	109,858	122,426	143,525	165,007	175,508
雑収入	251,795	159,974	117,731	77,408	112,315
借入金収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,012,307	898,073	707,760	554,563	502,680
その他の収入	417,102	492,014	496,936	398,704	683,474
資金収入調整勘定	△ 1,121,051	△ 1,027,346	△ 913,507	△ 719,695	△ 567,354
前年度繰越支払資金	3,617,404	3,424,498	3,237,123	3,051,413	2,334,739
収入の部合計	9,242,321	7,757,716	8,492,346	6,484,902	5,525,581

科 目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人件費支出	2,535,663	2,411,536	2,291,217	2,166,575	2,076,327
教育研究経費支出	966,700	832,221	863,947	778,773	688,586
管理経費支出	340,700	402,239	414,650	397,920	432,528
借入金等利息支出	3,701	3,176	2,842	2,507	2,173
借入金等返済支出	52,860	22,770	22,770	22,770	22,770
施設関係支出	238,079	429,393	99,087	237,496	186,871
設備関係支出	122,991	65,189	70,516	59,348	15,388
資産運用支出	1,283,668	93,177	1,424,349	81,628	75,726
その他の支出	295,584	281,078	316,077	424,462	271,991
資金支出調整勘定	△ 22,123	△ 20,185	△ 64,522	△ 21,316	△ 28,273
次年度繰越支払資金	3,424,498	3,237,123	3,051,413	2,334,739	1,781,494
支出の部合計	9,242,321	7,757,716	8,492,346	6,484,902	5,525,581

(イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	4,000,837	3,831,578	3,530,389	2,851,540	2,386,614
教育活動資金支出計	3,843,063	3,645,996	3,569,814	3,343,269	3,197,441
差引	157,773	185,582	△ 39,425	△ 491,729	△ 810,828
調整勘定等	△ 76,822	△ 93,691	△ 147,160	△ 196,437	△ 59,688
教育活動資金収支差額	80,951	91,891	△ 186,585	△ 688,165	△ 870,516
施設整備活動による資金収支					
施設整備等活動活動資金収入計	1,133,737	16,472	940,145	7,793	333,404
施設整備等活動活動資金支出計	1,438,882	494,582	1,510,948	296,843	202,259
差引	△ 305,145	△ 478,110	△ 570,803	△ 289,050	131,145
調整勘定等	△ 25,802	6,352	5,151	△ 590	△ 590
施設整備等活動資金収支差額	△ 330,947	△ 471,758	△ 565,652	△ 289,640	130,555
その他活動による資金収支					
その他の活動活動資金収入計	595,268	577,572	975,398	747,597	568,981
その他の活動活動資金支出計	513,880	385,080	408,871	461,274	419,806
差引	81,388	192,491	566,527	286,322	149,176
調整勘定等	△ 24,299	0	0	△ 1,448	△ 1,041
その他の活動資金収支差額	57,090	192,491	566,527	284,874	148,134
前年度繰越支払資金	3,617,404	3,424,498	3,237,123	3,051,413	2,334,739
翌年度繰越支払資金	3,424,498	3,237,123	3,051,413	2,334,739	1,781,494

(ウ)財務比率の経年比較

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動資金収支差額比率	2.0%	2.4%	-5.3%	-24.1%	-36.5%

(3)事業活動収支計算書関連

(ア)事業活動収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,049,960	2,942,036	2,700,256	2,195,171	1,748,995
	手数料	35,562	30,553	24,307	18,176	20,392
	寄付金	6,820	3,855	14,930	9,228	56,360
	補助金	656,554	694,919	673,780	554,684	449,454
	付随事業活動収入	145	242	155	150	150
	雑収入	251,795	160,071	117,731	77,408	112,315
	教育活動収入計	4,000,837	3,831,675	3,531,159	2,854,817	2,387,665
	事業活動支出の部					
	人件費	2,505,680	2,424,087	2,287,778	2,176,783	2,105,947
	教育研究経費	1,345,534	1,220,801	1,256,619	1,145,171	1,052,465
	管理経費	380,025	438,050	451,475	433,581	468,832
	徴収不能額等	405	0	0	0	0
	教育活動支出計	4,231,644	4,082,938	3,995,872	3,755,535	3,627,244
	教育活動収支差額	△ 230,808	△ 251,263	△ 464,713	△ 900,718	△ 1,239,579
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	107,512	120,128	141,180	162,662	175,450
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	107,512	120,128	141,180	162,662	175,450
	事業活動支出の部					
	借入金等利息支出	3,701	3,176	2,842	2,507	2,173
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	3,701	3,176	2,842	2,507	2,173
	教育活動外収支差額	103,811	116,952	138,338	160,154	173,277
	経常収支差額	△ 126,996	△ 134,311	△ 326,375	△ 740,564	△ 1,066,302
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	27,819	0	64,811	0	0
	その他特別収入	28,381	17,701	10,087	8,550	11,089
	特別外収入計	56,200	17,701	74,898	8,550	11,089
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	197,159	3,950	140,862	29,408	80,614
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	197,159	3,950	140,862	29,408	80,614
	特別収支差額	△ 140,959	13,751	△ 65,965	△ 20,858	△ 69,525
	基本金組入前当年度収支差額	△ 267,955	△ 120,560	△ 392,340	△ 761,421	△ 1,135,827
	基本金組入額合計	△ 19,901	△ 486,969	△ 27,138	△ 251,626	△ 188,866
	当年度収支差額	△ 287,856	△ 607,529	△ 419,477	△ 1,013,047	△ 1,324,693
	前年度収支差額	△ 2,140,344	△ 2,428,200	△ 3,035,729	△ 1,936,775	△ 2,949,821
	基本金取崩額	0	0	1,518,431	0	0
	翌年度収支差額	△ 2,428,200	△ 3,035,729	△ 1,936,775	△ 2,949,821	△ 4,274,515

(イ)財務比率の経年比較

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人件費比率	61.0%	61.3%	62.3%	72.1%	82.2%
教育研究経費比率	32.8%	30.9%	34.2%	38.0%	41.1%
管理経費比率	9.3%	11.1%	12.3%	14.4%	18.3%
事業活動収支差額比率	-6.4%	-3.0%	-10.5%	-25.2%	-44.1%
学生生徒納付金比率	74.2%	74.4%	73.5%	72.7%	68.2%
経常収支差額比率	-3.1%	-3.4%	-8.9%	-24.5%	-41.6%

(4)その他有価証券の状況

単位：円

	当年度(令和7年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	2,603,257,238	3,339,463,715	736,206,477
(うち満期保有目的の債券)	(1,162,858,319)	(1,179,703,050)	(16,844,731)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	2,747,658,217	2,090,979,000	△ 656,679,217
(うち満期保有目的の債券)	(0)	(0)	(0)
合 計	5,350,915,455	5,430,442,715	79,527,260
(うち満期保有目的の債券)	(1,162,858,319)	(1,179,703,050)	(16,844,731)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	5,350,915,455		

(5)借入金の状況

単位：円

種類	期末残高	利率	償還期限
[長期借入金] 日本私立学校振興・共済事業団	113,850,000	1.45%	令和12年9月15日
[短期借入金] 日本私立学校振興・共済事業団	22,770,000	1.45%	令和7年9月15日
合 計	136,620,000		

日本私学振興・共済事業団、兵庫県私学振興協会から、松蔭中学校・高等学校の耐震改修工事費用として借入を行っている。上記短期借入金は、長期借入金の1年以内返済分である。

(6)学校債の状況

学校債の発行はない。

(7)寄附金の状況

個人・団体等から以下のとおりの寄附金を受領した。

単位：円

	金 額	寄付者・内容
一般寄付金	52,105,380	個人
特別寄付金	3,202,940	個人・任意団体等
施設・設備寄付金	9,920,711	個人
現物寄付金	2,219,716	図書・機器備品
合 計	67,448,747	

(8)補助金の状況

単位：円

	金 額	内 容
経常費補助金	152,743,700	文部科学省
地方公共団体補助金	296,710,344	神戸市ほか
科学研究費補助金	10,735,400	文部科学省
合 計	460,189,444	

経常費補助金には、高等教育の修学支援に係る授業料減免等交付金 107,582,600 円を含む。

(9)収益事業の状況

収益事業は行っていない。

(10)関連当事者との取引の状況

単位：円

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権所有割合	関係内容		取引内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人 (注)	社会福祉法人 松蔭ミカエル 福祉会	神戸市 東灘区	—	認定子ども 園の経営	社会福祉法人であることから議決権の所有割合は定められておりません	兼任1名	—	当法人所有土地の使用貸借契約	—	—	—

(11)学校法人間財務取引

学校法人間の財務取引はない。

2. 経営状況の分析と経営上の課題

[経営状況の分析]

- ・令和6年度の資金収入では、大学・中高共に入学者数と在籍者数が伸び悩んだことで学生生徒等納付金収入が約446百万円前年比減収となった。(以下の計数は前年度との増減で示す)
- ・入学検定料の増収で手数料収入が増加した他、寄付金収入が中高に対する遺贈があり約51百万円増収となった。一方で、補助金収入は大学の在籍者数減による経常費補助金減額により減収に終わった。
- ・受取利息・配当金は、債券利回りの上昇と為替レートの円安によって約10百万円の増収となった。
- ・雑収入の増収は退職者数の変動により退職金財団からの交付金が増加したことによるもので、退職金支払額と両建てとなるため、全体では資金収支への影響はない。
- ・前受金収入は学生生徒数減少により約52百万円減収となった。
- ・その他収入が増収となっているのは、特定資産で運用していた投資信託の満期償還分約240百万円を計上したことによるものである。
- ・以上により資金収入は969百万円の減収となり、5年比較でも総じて漸減している。トップラインである学生生徒数の確保が課題であることは明白である。
- ・資金支出では、人件費支出が高年次教職員退職による教職員構成の変化と実績連動型賞与支給額の減少により約90百万円減少した。
- ・教育研究経費支出は、中高・大学共に収入に見合った経費構造への転換を目指して抜本的なコスト適正化を推進した結果、約90百万円支出減を実現した。また、管理経費支出は約34百万円のコスト増加となっているが、要因は大学の共学化と募集力強化に向けた支出発生による単年度要因であり、特殊要因除きではコスト削減は着実に進んでいる。
- ・施設関係支出等の設備投資は空調設備個別化や水回りの改修等の教育環境改善に向けた設備投資が中心である。設備関係支出は、主にICI機器の入れ替えや教室設備の改修によるものである。資産運用支出は、中高における特定資産への繰り入れ支出である。
- ・経費削減と設備投資抑制により支出の抑制に注力したものの、収入減をカバーするには至らず翌年度繰越支払資金は約553百万円減となった。

[経営上の課題]

- ・少子化が進展する中で入学者数の大幅な増加は見込めない状況において、中高・大学共に学生生徒に選ばれるカリキュラム並びに教育環境を充実していくことが最大の経営課題である。
- ・中高ではストリーム制導入や有力私立大学との提携、大学では共学化により時代の変化への適合を進めてきた結果、入学者数が底打ちした。一方で経費水準が規模に比較して高止まりしており、一層の構造改革を進めていく必要がある。
- ・加えて、受取利息配当金や科研費等の競争的資金獲得といった増収対策に留まらず、私立大学等改革総合支援事業による補助金獲得や同窓会との連携を含めて寄付金の積み上げといった取り組みにも注力していくことが必要である。
- ・特定資産を含めた運用資産は約80億円あることから構造改革を断行するのに必要な財政余力は確保している。今後は、経営規模に見合った適正人員での組織運営、聖域なきコスト削減、学生生徒募集に資する設備投資案件の厳選といった財政規律を重視した財務運営を徹底していく。

3. 財産目録

科 目	年 度		令和 6 年 3 月			令和 7 年 3 月		
一. 基 本 財 産				13,929,613,818	円		13,936,389,616	円
1 . 土 地								
(1) 大 学 校 地			44,321	m ²	3,266,256,217	円	44,321	m ² 3,266,276,217 円
(2) 中 高 等 学 校 校 地			13,522	m ²	385,483,264	円	13,522	m ² 385,483,264 円
(3) 運 動 場			38,564	m ²	3,844,312,324	円	38,564	m ² 3,844,312,324 円
(4) そ の 他			33,772	m ²	67,328,495	円	33,772	m ² 50,529,495 円
計			130,179	m ²	7,563,380,300	円	130,179	m ² 7,546,601,300 円
2 . 建 物								
(1) 校 舎			44,256	m ²	2,867,004,925	円	44,256	m ² 2,707,994,239 円
(2) 図 書 館			4,155	m ²	180,414,911	円	4,155	m ² 165,613,737 円
(3) 体 育 館			7,832	m ²	649,989,047	円	7,832	m ² 636,212,118 円
(4) そ の 他			1,802	m ²	103,742,020	円	865	m ² 95,163,466 円
計			58,044	m ²	3,801,150,903	円	57,107	m ² 3,604,983,560 円
. 図 書			530,433	冊	2,595,345,389	円	529,379	冊 2,585,543,510 円
. 教具・工具及び備品			6,868	点	204,375,479	円	6,720	点 156,773,292 円
. そ の 他					41,831,044	円		42,487,954 円
二. 運 用 財 産					9,180,018,479	円		8,267,064,801 円
1 . 預 金・現 金					2,334,738,531	円		1,781,494,157 円
現金					7,682,630	円		8,276,250 円
普通預金					1,961,055,901	円		1,405,217,907 円
定期預金					366,000,000	円		368,000,000 円
2 . 積 立 金					6,493,359,165	円		6,152,350,339 円
3 . 不 動 産					276,469,297	円		276,469,297 円
4 . 未収入金・前払金・その他					75,451,486	円		56,751,008 円
三. 負 債 額					1,658,354,487	円		1,618,136,086 円
1 . 固 定 負 債					842,673,011	円		849,522,716 円
(1) 日本私立学校振興・共済事業団					136,620,000	円		113,850,000 円
(2) 兵庫県私学振興協会					0	円		0 円
(3) 退 職 給 与 引 当 金					695,711,904	円		725,331,609 円
(4) 退 職 預 り 金					10,341,107	円		10,341,107 円
2 . 流 動 負 債					815,681,476	円		768,613,370 円
(1) 短 期 借 入 金					22,770,000	円		22,770,000 円
(2) 前 受 金					554,563,400	円		502,680,300 円
(3) 未 払 金					11,430,482	円		10,870,523 円
(4) 預 り 金					226,917,594	円		232,292,547 円
四. 基 本 財 産 + 運 用 財 産					23,109,632,297	円		22,203,454,417 円
五. 純 資 産 (四－三)					21,451,277,810	円		20,585,318,331 円
総負債 (三) －前受金								
総 資 産 (四)				4.8	%		5.0	%

4. 監事の監査報告書

監事監査報告書

令和 7 年 5 月 22 日

学校法人 松蔭女子学院
理事長 中村 豊 殿

学校法人 松蔭女子
学院
監事 山口 純
監事 光葉 正博

私ども監事は、私立学校法第 37 条第 3 項に基づき、学校法人松蔭女子学院の令和 6 年度（令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで）の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査した。

1. 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、計算書類の記載と合致していると認めます。
2. 資金収支計算書、事業活動収支計算書類及び貸借対照表（左記いずれも付属明細書を含む）ならびに財産目録は、法令及び寄附行為に従い、学校法人の財産及び経営の状況を正しく示しているものと認めます。
3. 学校法人松蔭女子学院の業務に関する決定及び執行又は理事の業務執行は適切であり、業務若しくは財産又は理事の業務に関する不正の行為、または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はありません。

以上

IV 対処すべき課題

1. 中学校・高等学校の教育関係

中学 2 ストリーム、高校 3 コースの各教育課程において、スクールモットー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーおよび各年度学校運営方針を落とし込み、具体化させることを継続する。その作業が学校全体の教育力を向上させ、選ばれる私学として生徒募集活動にも有効に作用する。次代を見据えた新しい学校づくり、私学としての更なる特色教育づくりの実現は学校存続の鍵である。

2026 年度からの一部コース共学化のため、2024 年 7 月より 3 回にわたって校内保護者対象説明会を開催し、同窓会からも了承を得た後の 11 月 1 日より学外へ公表した。133 年にわたり女子生徒のみを受け入れてきた学校として、内外に対する細心の配慮をもって一部コース共学化の準備を行う予定である。

なお各校とも女子生徒用スラックス制服を採用している。本校でも現行のワンピース制服とジャケット、スラックスタイプ制服を選択できるようにする。

2. 中学校、高等学校の生徒募集計画

(1) 中学校の生徒募集計画

DS 入学者数は微増（2021 年度 59→2022 年度 61→2023 年度 64→2024 年度 67）していたが、2025 年度入学生数は 45 名に留まる結果となった。学習塾等への広報・募集活動を一層強化するとともに、小学生対象英会話講座（松蔭 ELS 講座）、サタデーライブラリー（図書館開放）の周知をはかる。過去 2 年間を見ると、中学 DS から高校 LS/AA/GL へ、中学 GS から高校 LS/AA へそれぞれ進学した生徒があり、高校各コースへの進学の道筋も中高一貫の学校生活の中身として提示したい。中学 GS は特色ある教育課程により一定の評価を得ているが、各女子校の厳しい募集状況のなかで 1 クラス 10 名台で推移してきた。男子児童・保護者からの問い合わせ等もあり、2026 年度からの共学化を決定した。インターナショナルスクール小学校課程や英会話塾との一層の連携をはかる。

各私学とも共同して「中学受験市場」を拓け、いわゆる「中学受験率」を首都圏並みに上昇させる必要がある。なお中学 GS で連携する St.Michael International school

「サタデースクール」生（小学生）の多くが公立中学校に進学している。これら生徒・保護者に対しても GS 入学・転入制度の紹介を行う。

(2) 高等学校の生徒募集計画

高校募集人数（約 50 名）の充足をはかるため、LS/GL コースについては各中学校への広報・募集活動、AA コースについては各団体への広報・募集活動を強化する。特に GL コースについては公立高校の国際科やグローバル探究系学科を志願する中学生に対する募集活動を強化する。GL/AA コースは 2026 年度より男子生徒を受け入れる。

3. 中学校・高等学校の施設・整備関係

- ・一部コース共学化や施設・設備の老朽化や故障に対応するため、次の改修工事や更新を行う。
- ・共学化に向けたトイレ改修、男女更衣室の整備、教室扉の小窓の目隠し作業を実施する。
- ・体育館の照明設備更新と老朽化箇所の修繕を行う。
- ・ICT 設備の整備・更新作業を行う。
- ・夏期の熱中症予防対策として、体育館に複数台のスポットクーラーを設置する。

4. 大学の新学部・新学科等の増設等

近年の収容定員未充足からの脱却を図るために、2025 年度より共学に伴う大学名称の変更に合わせて、2 学科の名称変更を行う。具体的には、英語学科はグローバルコミュニケーション学科に、都市生活学科は人間科学科に変更する。さらに、2026 年度より日本語日本文化学科は人文社会学科に、教育学科は教育発達学科に名称変更を行う。これらの変更により、学科における学びがより高校生に伝わりやすくなることが期待される。

なお、人間科学部食物栄養学科については、2024 年度入学生をもって学生募集を停止した。また、文学研究科言語科学専攻（博士課程）については、2025 年 3 月に在籍する学生がいなくなったため廃止とした。

5. 大学の教育・研究関係

共学化に伴い、大学、学部および学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよびアドミッション・ポリシーを見直し、改正した。今後、ディプロマ・ポリシーに連動したアセスメントポリシーについて、IR と連携しながら検討する。

また、共学化に向けて、留学生や社会人などの多様な学生が入学する体制を整備した。外国人留学生向けに、日本語クラス（一部、留学生以外の学生と合同授業）を設け、日本語のスキルが段階的に習得できる科目群を外国語科目および全学共通科目に新設した。2025 年度より実施するカリキュラムの状況を確認しながら、多様な学生の学習環境について検討を続けていく。

学習成果の可視化について、学生に対してディプロマサプリメントを発行することを目指して検討を行なっている。まず、大学としての教育成果の公表について、ディプロマサプリメントに沿った各学年の学修到達度を示すレーダーチャートを作成した。今後、学習成果の可視化の指標について、さらに検討する。

2024 度も、研究倫理教材の動画、「人研究倫理教育 e-learning 教材：情報や資料を活かすために、あらかじめ知っておきたいこと ―信頼・協働・責任― <全 4 編>」を各学科の導入教育および卒業研究、卒業論文等の指導で活用し、人を対象とする研究における倫理教育を進めていく。

6. 大学の学生募集計画

2025 年度新入生の募集については共学への移行に伴い、新たな男子学生の募集を開始した。その結果、260 名（定員 400 名：女子 203 名・男子 57 名、定員充足率 65.0%）の入学となり、2024 年度入試よりも回復したものの、依然として厳しい状況が続いている。今後の 18 歳人口の動向をみると、2025 年度、2026 年度入試は横ばいとなるが、それ以降は急減期に入り、年 2 万人以上のペースで減少が続くと予想される。また、年内に進学先を決定する学生の比率が年々高まっており、総合型選抜、学校推薦型選抜の重要性が増している。こうした状況に鑑み、2026 年度入試では、入学生の多様性を確保するため、総合型選抜だけでなく、社会人学生、外国人留学生に向けた入試についても 3 期に分けて行い、入学定員確保に向けて進めていく必要がある。

具体的な方策は、以下のとおりである。

①総合型選抜及び学校推薦型選抜を強化し、年内入試による入学者増を目指す。また、一般選抜の志願者獲得は勿論、社会人、外国人留学生に向けた入試制度の整備を行い、多様な志願者の獲得を目指す。また、共学志向の受験行動に即した入試情報の提供と広報を展開し、前期日程での志願者獲得を目指す。

②広報面については、公式サイト、SNS の活用や動画による本学の情報発信を引き続き推し進める。そして、高校訪問の強化と会場相談会、高校内ガイダンスにも積極的に参加し、直接

的なコンタクトにより、本学の教育内容に対する信頼度を高め、指定校推薦や総合型選抜での志願者獲得を目指す。

- ③高大連携事業については、2024 年度末現在、兵庫県下を中心に、25 校との連携協定を結び、教育連携を進めている。2024 年度は 92 件の高大連携授業を実施したが、さらに増やしつ、連携を通じて本学の教育内容を周知していく。
- ④2025 年度入試に引き続き、社会人に対する入試の一つとして、同窓会会員を対象にした入試を実施する。